

平成19年度幼・保・小連携調査研究委員会報告書

## 子どもの学びが生まれる保育・授業の工夫と保育研究・授業研究

—幼・保・小連携の充実のためのQ & A—



栃木県総合教育センター

平成20年3月

# も く じ

## はじめに

### 第1章 幼・保・小連携について理解しましょう

～とちぎの幼・保・小連携 Q & A～

- |     |                                                 |   |
|-----|-------------------------------------------------|---|
| Q 1 | 幼・保・小連携の具体的な取組にはどのようなものがありますか？                  | 2 |
| Q 2 | 幼・保・小連携は、なぜ必要なのですか？                             | 3 |
| Q 3 | 幼稚園や保育所等における幼児教育と小学校教育の段差とは、<br>どのようなものですか？     | 4 |
| Q 4 | 幼・保・小連携の今後の在り方について教えてください。                      | 5 |
| Q 5 | 幼・保・小連携の取組について保護者の理解を得るためには、<br>どのような手立てがありますか？ | 6 |

### 第2章 保育研究・授業研究の実践事例を紹介します

～平成18年度幼・保・小連携推進充実事業の成果報告～

- |        |                                                              |    |
|--------|--------------------------------------------------------------|----|
| 実践事例 1 | 茂木町<br>小学校へ学びをつなぐ保育園における年長児クラスの<br>2月・3月の保育活動（例） ～就学前にこれだけは～ | 8  |
| 実践事例 2 | 野木町<br>小学校の授業改善に向けて ～5つのポイント～                                | 16 |
| 実践事例 3 | 塩谷町<br>自分の思いを伝え合う仲間づくりをめざして<br>～友達の話っておもしろい・聞いてもらえるって気持ちいい～  | 24 |
| 実践事例 4 | 足利市<br>話し合うことで見えてきた子どもの姿<br>～「話す」「聞く」の観点で～                   | 32 |

平成19年度幼・保・小連携調査研究委員会協力委員一覧

参考文献

## は じ め に

近年の科学の進歩、情報化、国際化、少子高齢化、家族の在り方など、我が国の教育をめぐる状況が大きく変化し、子どもの育ちの様々な課題が指摘されています。

しかし、子どもを取り巻く環境がいかに変化しようとも、子どもたちに豊かな心をはぐくみ、生涯にわたって、自ら学び、自ら考える力などの「生きる力」をはぐくむことが大切であり、幼児教育には、その基礎を培うことが求められています。

平成18年12月に改正された教育基本法の中で、幼児期の教育は、その後の人格形成の基礎を培う重要なものであると規定され、幼児教育の重要性が明示されました。

さらに、平成20年1月17日の、中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」においては、幼稚園教育は、「義務教育及びその後の教育の基礎を培う上で重要な役割を担っている」ことが示され、その上で、「小学校との円滑な接続を図り、幼稚園における教育の成果が小学校につながっていくことが大切である」と述べられています。文部科学省では、この答申を踏まえ、新しい幼稚園教育要領及び小学校学習指導要領を作成しました。

また、保育所保育指針においても、幼稚園教育要領との整合性が一層図られ、平成21年度には、新しい保育所保育指針が完全実施される予定となっています。

このようなことから、幼稚園・保育所・小学校が互いに連携し、家庭・地域等と協力しながら幼児児童の実態に応じた特色ある保育や教育を展開することが、今後、ますます必要となります。

このように、幼稚園・保育所・小学校の一層の連携充実が求められる中、栃木県総合教育センター幼児教育部（栃木県幼児教育センター）では、教職員の相互理解を深めるため、平成18年度より「幼・保・小連携推進充実事業」を実施してきました。本冊子は、その取組の報告書として、地域で幼・保・小連携を推進するに当たっての基本となる考え方や方策についてまとめたものです。各地域における研修や実践の参考資料として御活用いただければ幸いです。

最後に、本年度の調査研究を進めるに当たって御協力いただいた委員の皆様に深く感謝申し上げます。

平成20年3月

栃木県総合教育センター所長

五味田 謙 一

## 第1章

### 幼・保・小連携について理解しましょう

#### とちぎの幼・保・小連携 Q & A



この章では、本県の幼・保・小連携の基本事項をまとめました。  
幼・保・小連携は、なぜ必要か、どのような取組があるかなどの疑問があるとき、あるいは、教職員同士の共通理解を図りたいときの参考にしてください。

Q 1

幼・保・小連携の具体的な取組には  
どのようなものがありますか？

A1

栃木県では、幼児期から児童期の子どもの発達段階を踏まえた指導の充実を目指し、次の4つの取組を柱に、幼・保・小連携を推進しています。



連絡体制の整備



子どもの交流活動



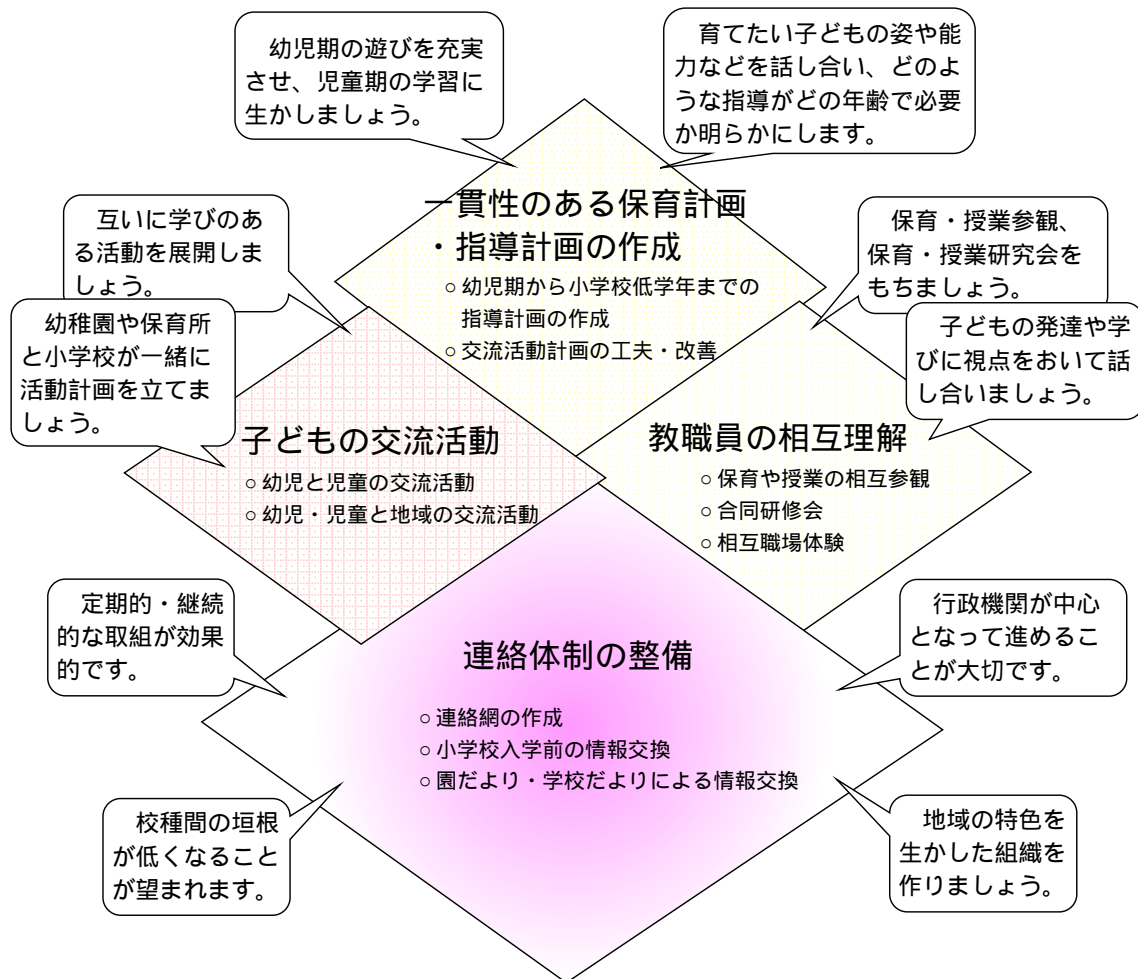
教職員の相互理解



一貫性のある保育計画・指導計画の作成

具体的には、次のような取組があります。

### ◆ モデル図：幼・保・小連携の具体的な取組 ◆



## Q 2 幼・保・小連携は、なぜ必要なのですか？

A2

生活や遊びを通した総合的な指導を行う幼児教育と、教科の学習を中心とした指導を行う小学校以降の教育とでは、その方法において違いがあります。子どもにとってはその違いが段差となって不適応を起こし、小学校以降での様々な問題となって現れてくる場合があります。

そこで、近年、幼児教育から小学校教育への接続の在り方を考える取組、つまり幼・保・小連携が求められるようになりました。

さらに、その背景を詳しく説明します。



### ◆ 幼・保・小連携が求められる背景 ◆

#### 子どもを取り巻く社会の変化

- ・ 少子化、核家族化、都市化、情報化等の経済社会の急激な変化
- ・ 人間関係の希薄化、地域における地縁的なつながりの希薄化、大人優先の社会風潮

#### 子どもの生活や育ちの変化

- ・ 基本的な生活習慣の欠如
- ・ コミュニケーション能力の不足
- ・ 自制心や規範意識の不足
- ・ 小学校生活への不適応
- ・ 学びに対する意欲・関心の低下

#### 保育・教育に求められている課題

- ・ 規範意識の確立に向けた集団とのかかわりに関する内容の充実
- ・ 小学校低学年の学習や生活の基盤となるような幼児期の体験の充実
- ・ 幼児教育の成果を踏まえた小学校生活への適応のための指導の工夫
- ・ 発達の段階に応じた基本的な生活習慣等の確立
- ・ 遊びから学習への円滑な移行
- ・ 家庭との連携・協力

幼児教育の成果を小学校教育に生かす  
幼・保・小連携の推進が必要

## Q 3 幼稚園や保育所等における幼児教育と小学校教育の段差とは、どのようなものですか？

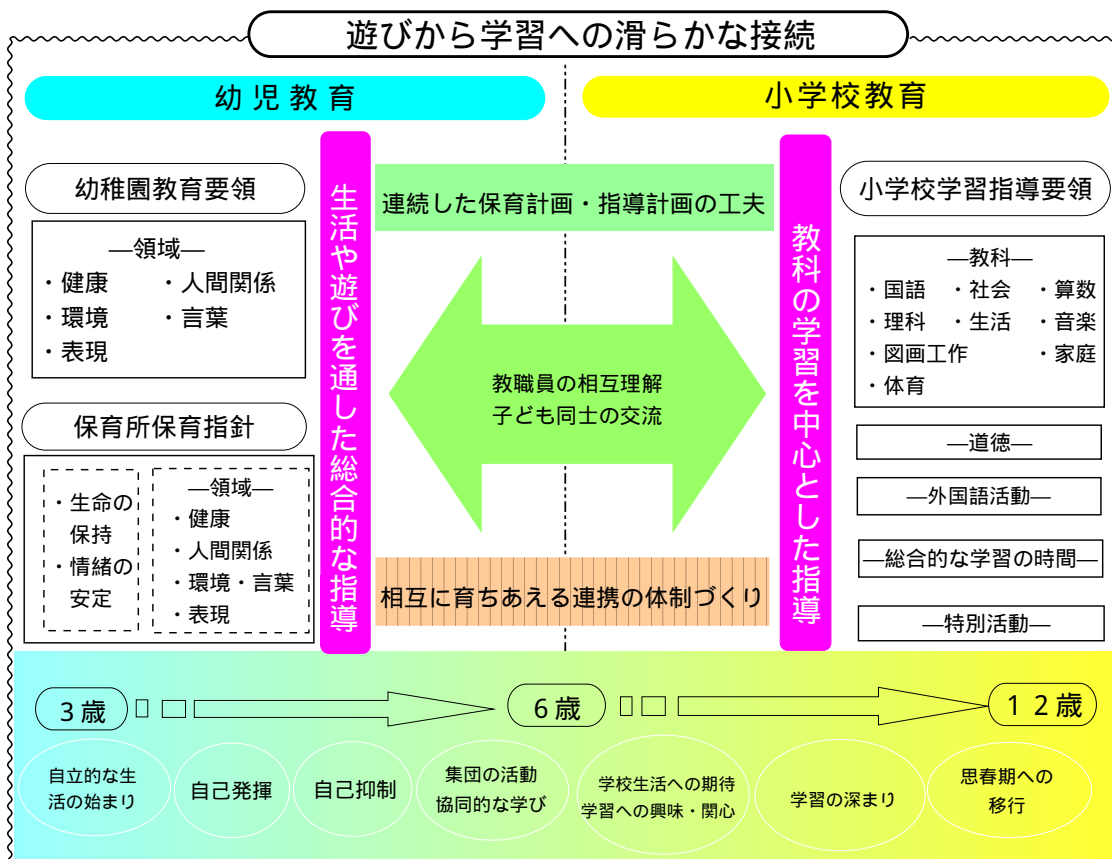
A3

1日の生活の流れを例に考えてみましょう。幼稚園や保育所では、1日が活動のまとまりです。それに対して小学校では、国語や算数などの教科中心の授業が組み立てられ、授業の間に休み時間があるという生活です。

子どもにとって、給食やお弁当以外は明確な時間の区切りがなく過ごす幼稚園・保育所での生活から、細かく区切られた時間割どおりに過ごす小学校生活への移行は、大きな戸惑いとなることもあります。

さらに、教育全体から見ると、次のような違いがあります。

### ◆ 幼児教育と小学校教育の特色 ◆



◆ 小学校低学年の生活科で具体的な体験や活動が重視され、また、年長児において協同的な活動の充実が求められるようになるなど、幼児教育から小学校教育への円滑な接続が少しずつ進んでいます。

## Q 4 幼・保・小連携の今後の在り方について教えてください。

A4

幼・保・小連携の基本は、「生きる力」の基礎となる幼児教育の成果を小学校教育に生かすということです。幼児教育から小学校教育への円滑な接続が目的であり、子どもが交流すればよい、教職員が話し合えばよいということではありません。また、幼児期からいわゆる早期教育を進めるということでもありません。幼・保・小の教職員が、子どもの発達と互いの保育・教育を理解し子どもの成長を共に見守っていくことが大切です。

そのためには、次のようなことがポイントとなります。

### ◆ 幼・保・小連携の充実のために ◆

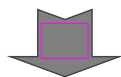
校種間の垣根が低くなり情報が共有できるよう、連絡網の作成や情報交換システムの構築など、地域の特色に応じた連絡体制を整備しましょう。

子どもの交流活動では、幼児・児童が互いに学びのある活動になるよう、双方のねらいを明確にし、教職員と一緒に活動計画を立てましょう。

### 幼児教育の成果を 小学校教育に生かす

保育・授業参観、保育・授業研究会をもち、子どもの発達や学びに視点をおいて話し合い、教職員の相互理解を深めましょう。

幼児期から児童期への子どもの発達や、年齢に応じた適切な指導の在り方を互いに理解し合い、幼保・小それぞれのカリキュラムに位置付けましょう。



第2章で実践事例を紹介しています

## Q 5 幼・保・小連携の取組について保護者の理解を得るためには、どのような手立てがありますか？

A5

幼稚園や保育所では、次のようなことが考えられます。

園だよりによるお知らせ 保護者会での講話 幼児と児童の交流

小学校では、次のようなことが考えられます。

就学時健康診断等の機会を利用しての講話 学校開放日への招待

その際、幼・保・小連携の取組を行ったことでうまくいった、具体的な事例を挙げながら、積極的に伝えていきましょう。

例えば、次のようなことに有効です。

### 【入学前の保護者や子ども】

うちの子、小学校  
でうまくやっていけ  
るかしら。



幼稚園でもひらがな  
の練習をさせてくださ  
い。

無理な要望は不安の裏返しということもあります

そんなとき・・・就学時健康診断で来校した保護者への校長先生の講話

小学校入学は、子どもの成長のよい機会です。本校では、幼・保・小連携に取り組んでいます。そのため、幼稚園や保育所と、本校の教職員の相互理解を図り、幼稚園や保育所で培われた力を小学校で生かせるよう、授業の工夫をしています。幼児期に試したり工夫したり、自分で考えて遊んだことが、小学校で生きてきます。ですから、自分の名前が書けないからなどといって心配することはありません。文字の指導は、・・・。



幼稚園では、無理に文字の練習をしなくてもいいのね。  
幼稚園や保育園での経験を踏まえて、小学校でしっかり指導してくれるのね、安心したわ。



保護者も子どもも安心し、楽しい学校生活を送ることができます。



## 第 2 章

### 保育研究・授業研究の実践事例を紹介します

#### 平成 18 年度幼・保・小連携推進充実事業の成果報告



この章では、平成 18 年度幼・保・小連携推進充実事業に取り組んだ 4 市町の実践事例をまとめました。

保育や授業を参観し、どのようなテーマで保育・授業研究会を行ったらよいのか、また、どのような成果が期待できるのかなどの疑問があるとき、その手がかりとして参考にしてください。

## 実践事例 1 茂木町

### 小学校へ学びをつなぐ 保育園における年長児クラスの2月・3月の保育活動（例） ～ 就学前に これだけは ～

#### 研究協力校、園

茂木町立逆川小学校 茂木町逆川保育園  
学校法人 尾瀬学園 茂木愛泉幼稚園

#### 保育・授業研究会と成果の概要

（内は参加者の感想等）

#### 第1回授業研究会(逆川小学校) 6月19日

##### ・第1学年 算数 「のこりはいくつ」

本時のねらい：求残の場面を減法の式で表すことができる。

- ・ 教師の発問や言葉一つ一つに責任をもたなければいけないということを改めて感じた。
- ・ 一人の子どもの反応をじっくりと追っていく手法をとりながら、教師の指導について協議することができた。
- ・ わからなかった子どもや学習に集中できない子どもに対して、その原因はどこにあるのか考え、それらを取り除くことが一人一人を大切にしたい授業であることがわかった。
- ・ 授業参観では、子どもの素直なつぶやきを聞き取ることににより、子どもの内面や思考の筋道がわかった。

#### 第2回授業研究会(逆川小学校) 10月3日

##### ・第3学年 算数 「水のかさ」

本時のねらい：かさの単位「d?」を知るとともに、「?」との関係を理解する。

- ・ 子どもの認識をゆさぶり、「そうだったのか」と子どもがわかる授業を工夫することの大切さがわかった。
- ・ その子の態度や行動がどういうことに起因しているのかを分析することは、今後の授業を構成するための参考となった。
- ・ 困っている子どもに対し適切な指導をするには、子どものつぶやきや行動を丁寧に見取ることが大切であると実感した。
- ・ 「子どもがもっている世界を見据える」という考え方を知り、子どもの思いや考えに寄り添うことの大切さに気付いた。

#### 第3回保育研究会(逆川保育園) 10月18日

##### ・年長・年中 「私の野菜スタンプ」

今日のねらい：一人一人の意欲を大切にし、スタンプ遊びを通し表現することで、喜びや自信をもつことができる。

P.14 参照

#### 第4回保育研究会(茂木愛泉幼稚園) 11月7日

・年長 「劇あそび」

今日のねらい：物語に親しみ、友達と一緒に表現することを楽しむ。

- ・ 他校種の先生の子どもの見方には、自分たちとは違った見方があることを知り、子どもの見方が広がった。
- ・ 幼・保・小、そして行政が一緒になって子どもの教育を考えていくこと、指導力を向上させていく意識をもつことは、とても重要であり必要なことだと思った。
- ・ 保育・授業参観の機会を増やす必要があると感じた。

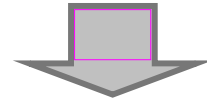
#### 第5回授業研究会(逆川小学校) 12月5日

・第6学年 学級活動 「もうすぐ中学生」

本時のねらい：中学校生活について考え、もうすぐ中学生になる自覚をもつことができる。

- ・ 子どもの発想・発見を大事にした授業をしていかなければならないと感じた。
- ・ 一人一人の子どもの成育歴・生活環境・性格等を把握することが大切であり、発問や活動の工夫によって、その子に変容が見られることを再確認できた。
- ・ 模擬授業形式の研修では、子どもの立場になって話を聞くことができた。子どもは、人間関係の中で学ぶということを実感することができた。
- ・ 授業を展開するときは、教師の目線だけでなく、子どもの思考に沿って考えることが大切だとわかった。

### 保育・授業研究会を生かした取組



小学校入学後の教科等の内容を踏まえ、下の表の項目において「就学前には、遊びを通してこういう経験をさせておきたい。」という見通しを明らかにすることができた。

| 就学前に経験させたいこと | 項 目                            | 観 点     |
|--------------|--------------------------------|---------|
|              | いきいきとした健康な身体をつくること             | 健 康     |
|              | 食べ物に関心をもち、楽しく食べること             | 健 康     |
|              | 友達とたくさんかかわり、いろいろな関係を広げること      | 人間関係    |
|              | 生活の中でのきまりを守ること                 | 人間関係    |
|              | 身の回りの様々なことに気付いたり、発見したりすること     | 環 境     |
|              | 話を聞いたり、言葉や文字などで表現したりすること       | 言葉・文字・数 |
|              | 数や量の大きさ・図形についての感覚を豊かにすること      | 言葉・文字・数 |
|              | 様々な音を楽しんだり、身体で表現したりすること        | 表 現     |
|              | 物を作ったり壊したりしながら、試す・切る・折る・結ぶ等をする | 表 現     |

そして、「小学校へ学びをつなぐ保育園における年長児クラスの2月・3月の保育活動(例)」を作成した。 P. 10 資料参照

「小学校へ学びをつなぐ保育園における年長児クラスの2・3月の保育活動(例)」の表中は、上記の「就学前に経験させたいこと」の番号と対応しています。

表中の「観点」は、「保育所保育指針」及び「幼稚園教育要領」の領域を参考に設定しています。

# 取組

## 【小学校へ学びをつなぐ保育園における年長児クラスの2・3月の保育活動（例）】

※項目の欄の①～⑨は、P.9の「就学前に経験させたいこと」の①～⑨と対応しています。

| 保育園     |                                                                         |               | 小学校               |                                                                                                                                                                     |
|---------|-------------------------------------------------------------------------|---------------|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 観 点     | ね ら い                                                                   | 項 目           | 1年生の学習内容・生活習慣等    |                                                                                                                                                                     |
|         |                                                                         |               | 教科領域等             | 内 容 等                                                                                                                                                               |
| 健 康     | ○健康や安全に必要な態度を身に付けて行動し、新しい生活に向けて自信をもつ。<br><br>○戸外で積極的に体を動かして、集団遊びなどを楽しむ。 | 体を動かす遊び<br>①⑧ | ○体育               | ○縄跳び（長縄くぐり抜け・短縄連続跳び）<br>○竹馬<br>○ボール投げゲーム<br>（中当てドッジボール・円形ドッジボール・方形ドッジボール）<br>○ボール蹴りゲーム<br>（ドリブル・シュート・サッカーゲーム）<br>○鬼遊び<br>（一人鬼・高鬼・重なり鬼・増やし鬼・こおり鬼）<br>○わらべ歌（ひらいたひらいた） |
|         |                                                                         | 食事<br>①②      | ○学級活動<br>・給食時の指導  | ○給食の用意<br>○なんでも食べよう<br>○虫歯の予防<br>・基本的な食事のマナー（おはしの持ち方・食器の置き方・口に食べ物を入れたまま話さない）<br>・正しい配膳の順序<br>・苦手なものでも一口は食べようとすする努力<br>・時間内（20分間）に食べる<br>・食後の歯みがき（3分間磨く）             |
|         |                                                                         | 手洗い・うがい<br>①② | ○学級活動<br>・日常の指導   | ○体をきれいに<br>・石けんを使つての手洗い・アルコール消毒の仕方<br>・うがいの仕方                                                                                                                       |
| 人 間 関 係 | ○大きくなった喜びを感じ、お世話になった人にいろいろな場面で感謝の気持ちを表す。                                | あいさつ<br>③⑥    | ○道徳<br>・あたりまえ10か条 | ○あいさつでしあわせに（あいさつは心のリボン）<br>○だいいな忘れ物<br>（気持ちのよいあいさつ）<br>・第1条<br>「元気にあいさつをする。」                                                                                        |

| 観<br>点           | 保 育 園                                                                              |                           | 小 学 校                   |                                                                                                                                        |
|------------------|------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|-------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                  | ね ら い                                                                              | 項 目                       | 1年生の学習内容・生活習慣等          |                                                                                                                                        |
|                  |                                                                                    |                           | 教科領域等                   | 内 容 等                                                                                                                                  |
| 人<br>間<br>関<br>係 | <p>○社会生活のマナーを身に付け、相手のことを考えて行動する。</p> <p>○見通しをもって卒業式やお別れ会などの行事に参加し、自分なりの役割を果たす。</p> | 行事への参加<br>③④⑤             | <p>○国語</p> <p>○学級活動</p> | <p>○おみせやさんごっこをしよう</p> <p>○学しゅうはっぴょうかいをしよう<br/>(歌・合奏・劇の発表)</p> <p>○たのしい遠足</p> <p>○おいわい会の計画を立てよう<br/>(2年生への進級にあたり)</p> <p>○おいわい会をしよう</p> |
|                  |                                                                                    | 持ち物の整理<br>④⑤              | <p>・入学式</p> <p>・卒業式</p> |                                                                                                                                        |
|                  |                                                                                    |                           | <p>・日常の指導</p>           | <p>・衣服の着脱</p> <p>・衣服のたたみ方</p> <p>・衣服の調整</p> <p>・お道具箱の整理</p> <p>・ロッカーの整理</p>                                                            |
|                  |                                                                                    | 時間<br>④⑦                  | <p>・日常の指導</p>           | <p>・時計を見て行動<br/>(チャイムが鳴る前に教室に戻って席に着く。<br/>長い針が○までに～をする。)</p>                                                                           |
|                  |                                                                                    | 当番活動<br>(グループでの活動)<br>③④⑤ | <p>・当番活動</p>            | <p>・日直</p> <p>・給食当番</p> <p>・係活動<br/>(黒板係・保健係・電気係・まど係・整頓係・体育係など)</p>                                                                    |

| 観 点           | 保 育 園                                 |             | 小 学 校                    |                                                                                                                                                                                                             |
|---------------|---------------------------------------|-------------|--------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|               | ね ら い                                 | 項 目         | 1 年生の学習内容・生活習慣等          |                                                                                                                                                                                                             |
|               |                                       |             | 教科領域等                    | 内 容 等                                                                                                                                                                                                       |
| 環 境           | ○春になり、自然や自分たちの生活に変化があることに気付く。         | ウサギ当番<br>④⑤ | ・コイ当番                    | ・池にいるコイにえさをあげる。                                                                                                                                                                                             |
|               |                                       | 春探し<br>③⑤   | ○生活科                     | ○なにかがあるかな<br>(学校の動植物を探し、遊ぶ。)<br>○あつくなってきたね<br>(夏への季節の変化に気付き、夏のを探したり遊んだりする。)<br>○きもちがいいね きれいだね<br>(秋への季節の変化に気付き、秋のを探したり遊んだりする。)<br>○きたかぜであそぼう<br>(冬への季節の変化に気付き、冬のを探したり遊んだりする。)<br>○はるよこい<br>(春を見つけたり感じたりする。) |
| 言 葉 ・ 文 字 ・ 数 | ○場面に応じて自分の考えや思いをみんながわかるように、言葉で伝える。    | 読み聞かせ<br>⑥  | ・読み聞かせ                   | ・絵本・大型絵本<br>・紙芝居・語り聞かせ                                                                                                                                                                                      |
|               | ○言葉や文字、数字を話したり、読んだり書いたりして生活の中で使って楽しむ。 | 言葉遊び<br>⑥⑧  | ○国語                      | ○ことばであそぼう<br>(しりとり・あたまとり・クロスワードパズル)<br>○おみせやさんごっこをしよう                                                                                                                                                       |
|               |                                       | 言葉集め<br>⑥⑧  | ○国語                      | ○うたにあわせて、あいうえお<br>(あ・い・う・え・おで始まる言葉を集める。<br>平仮名のカードで遊んで50音に親しむ。<br>かるたで遊びながら、言葉や文字に親しむ。)                                                                                                                     |
|               |                                       | 暗唱<br>⑥⑧    | ・暗唱スキル                   | ・春・風の又三郎・付け足し言葉・春望<br>・春の七草・秋の七草・百人一首 (一部)                                                                                                                                                                  |
|               |                                       | 外国の言葉<br>⑤⑥ | ・フレンドリー<br>タイム<br>(英語活動) | ・あいさつ・自分の名前・物の名前・天気<br>・気持ち・色・数・歌<br>・ゲーム・A～Zの呼び方                                                                                                                                                           |

| 観 点       | ね ら い                                                                | 保 育 園         |                                                                                                                                                                                                                                                | 小 学 校          |                                                                                                                                                                                                                                  |
|-----------|----------------------------------------------------------------------|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|           |                                                                      | 項 目           | 保育活動<br>※印……年間を通しての保育活動                                                                                                                                                                                                                        | 1年生の学習内容・生活習慣等 |                                                                                                                                                                                                                                  |
|           |                                                                      |               |                                                                                                                                                                                                                                                | 教科領域等          | 内 容 等                                                                                                                                                                                                                            |
| 言 葉・文 字・数 |                                                                      | 文字<br>⑤⑥      | ○自分の名前が読める、書ける<br>○鉛筆の持ち方（線をなぞる）<br>○ひらがな<br>○郵便屋さんごっこ<br>○カルタとり<br>○大型絵本を読み合う<br>○繰り返し読みの言葉を楽しむ<br>（絵本「きよだいなきよだいな」）<br>○親への手紙                                                                                                                 | ○国語            | ○自分の名前をひらがなで書く。<br>○50音をひらがなで正しく書く。<br>○濁音・半濁音・促音のついたひらがなを書く。<br>○長音・拗音を含む言葉を書く。<br>○主語・述語を入れて文を書く。<br>○「は・を・へ」を文の中で正しく使う。<br>○句読点を適切に打つ。<br>○カタカナを書く。(1～2年生でカタカナの学習は完了)<br>○漢字80字を書く。                                           |
|           |                                                                      | 数<br>⑦        | ○具体物の数え方<br>・自分には自分の年の数だけ豆を食べる。<br>・身の回りのものを数える。<br>・「すうじのうた」の数字を絵に描いてイメージする。<br>○数字の読み方、書き方（1～10の数）<br>○お店屋さんごっこ（10円玉が20枚で）                                                                                                                   | ○算数            | ○いくつかな<br>（0～10までの数について、数え方・読み方・書き方・大小がわかる。）<br>○たしざん・ひきざん<br>（繰り上がりのあるたし算・繰り下がりのあるひき算）<br>○10より大きいかず<br>（100までの数について、数え方・読み方・書き方・大小がわかる。）                                                                                       |
| 表 現       | ○季節の歌や思い出の歌を歌い、みんなで作って歌う楽しさを味わう。<br>○様々な材料や道具を使い、友達と一緒に作り上げる達成感を味わう。 | 歌・楽器・遊戯<br>⑤⑧ | ○季節の歌（鬼のパンツ・節分の歌・ひなまつり・春がきた・はじめの一步さよならぼくたちの保育園・未来へ）<br>○楽器遊び（ミュージックベル・打楽器）<br>○遊戯（鬼のパンツ・フォークダンス）                                                                                                                                               | ○音楽            | ○歌<br>○リズム打ち<br>○身体表現<br>○鍵盤ハーモニカ<br>○楽器の音（すず・カステネット・タンブリン・トライアングル・大太鼓・小太鼓・鉄琴・木琴など）<br>○手作り楽器づくり                                                                                                                                 |
|           |                                                                      | 製作<br>⑤⑨      | ※道具の使い方（のり・はさみ・クレヨン・マーカーペン・絵の具・セロハンテープ）<br>○鬼のお面作り<br>○ひな人形作り<br>○お店屋さんごっこ<br>・持ち寄った材料（空き容器等）を自由に使い、想像しながら作品を作る。（ロボット・ままごと・人形・車など）<br>・廃物を利用したおもちゃを作る。<br>（ブーメラン・けん玉・マラカスなど）<br>・廃物を利用した飾りを作る。<br>（花・壁飾り・小物入れ・ハンドバック）<br>○卒園製作（壁画製作） ※折り紙カレンダー | ○図工            | ○すきなもののいっぱい（クレヨンで描く）<br>○しぜんとなかよし<br>（石・葉・砂・草木等を使っの製作）<br>○おしゃれなハンドバック<br>（透明容器・紙容器を使っの製作）<br>○みてみて、いっぱいつくったよ（粘土での製作）<br>○つなげてかさねて<br>（紙を折ったり切ったりしての飾りの製作）<br>○ふわふわポンポン<br>（ポリ袋に飾りをつけ、空気をいれて遊ぶ。）<br>○ひかるいろのなかまたち<br>（セロハンを使っの製作） |

# 資料

## 【第3回保育参観記録（抜粋）】

|        |                                     |     |             |
|--------|-------------------------------------|-----|-------------|
| 実施園    | 逆川保育園                               | 実施日 | 平成18年10月18日 |
| 参加者・人数 | 幼稚園教諭、保育士、小学校教諭、大学院生、大学教員、指導主事 計22名 |     |             |

|        |                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 活動名・学年 | 「私の野菜スタンプ」(年長・年中)                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 今日のねらい | <p>○ 一人一人の意欲を大切にし、スタンプ遊びを通し表現することで、喜びや自信をもつことができる。</p> <p>本園の栽培活動について<br/>         領域「環境」を重視した活動であるが、友達とかかわりながら食べ物を育てる「人間関係」、変化などを言葉のやりとりをしながら伝え合う「言葉」、育てたものを絵に描く「表現」、育ちを喜び合い食べる「健康」、と5領域すべてに関連した活動である。</p> |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 時刻     | 子どもの主な活動                                                                                                                                                                                                    | 子どもの反応(つぶやき・会話など)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 10:15  | 1 朝のあいさつ<br>・季節の歌を歌う。                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 10:25  | 2 活動への導入<br>・野菜を選んだわけを話す。<br>・友達や保育士に自分の思いを言葉で伝えたり、友達の話の聞いたりする。                                                                                                                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「おもしろい形だから」</li> <li>・「おじいちゃんが用意してくれた」</li> <li>・「畑にお父さんと一緒にとりに行って選んだ」</li> <li>・「トマトが嫌いだったのに、食べられるようになったから」</li> <li>・持ってきた野菜を友達と数え合っている。<br/>「1+3は3」「ちがうよ、1+2が3だよ」</li> <li>・野菜の長さを比べている。</li> <li>・野菜を組み合わせせて形作りをしている。</li> <li>・野菜のにおいをかいでいる。</li> <li>・野菜を友達の口に「あ～ん」と食べさせるまねをしている。</li> </ul>                                        |
| 10:35  | 3 スタンプ作り<br>・野菜をどのように切りたいか考え、切ってもらう。                                                                                                                                                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜を忘れてしまった子に対して、「貸してあげる」</li> <li>・いろいろな切り方を考え出す。</li> <li>・切った野菜をくっつけて遊ぶ。</li> <li>・手を包丁にして、トントンと切るまねをする。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                     |
| 10:40  | 4 スタンプ遊び<br>・好きな色を選び、画用紙に野菜スタンプを押して、自由に表現する。                                                                                                                                                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ぼくにも貸して」「みんなで使おうよ」</li> <li>・友達の持ってきた野菜を貸してもらいながらスタンプを押す。「貸して」「いいよ」</li> <li>・6色を使ってスタンプを押す。「次は赤！」</li> <li>・偶然できた形を何かに見立てて、次々とスタンプを押していく。「雪だるまになった」</li> <li>・「あ、また合体しちゃった」</li> <li>・「どれがいい?」「(こんにゃくの)たねいも。じいちゃんが作ったんだ」</li> <li>・色のついた野菜を洗って、別の色のスタンプを押す。</li> <li>・友達と画用紙を重ねて割り印のようにしてスタンプを押す。</li> <li>・形をイメージしながら押している。</li> </ul> |

### 【保育研究会での主な意見】

|                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|---------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 大学教員<br>担任<br>記録者<br>記録者<br>保育士<br>小学校教諭    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日々の記録よりA君、B君について説明をお願いします。</li> <li>・ 2人について説明する。</li> <li>・ 保育時間中のA君の行動・発言を発表。</li> <li>・ 保育時間中のB君の行動・発言を発表。</li> <li>・ B君を観察していて気になった点を発表。</li> <li>・ Cさんについて観察し（ほとんど話さない子だったので、気になって追ってみた。）行動・発言を発表。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 大学教員<br>指導主事<br>担任<br>小学校教諭<br>指導主事<br>大学教員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Dさんについて観察。Dさんの行動・発言を発表。</li> <li>・ 今日の保育のねらいは、スタンプ遊びなのか？千歳飴の袋を作ることなのか？1回の活動だけでは、袋にするイメージができない子いるのではないかな？</li> <li>・ スタンプを楽しむことがねらいであるが、ただペタペタと押すだけではもったいないと思い、袋に仕上げられればと思っている。この1枚だけではなく、2枚、3枚と繰り返し活動しながら、工夫したものを袋にしていきたい。</li> <li>・ 1年生でもスタンプ遊びをするが、今日の活動を見て、保育園で自由にペタペタ押す遊びを体験してきているので、次の段階のイメージがもてて、すぐに取り組むことができるということがわかった。</li> <li>・ 具体的な指示の仕方がよかった。「洗って色を変えてもよい。」という説明を始めにしておく、活動がさらに広がったのではないかな。また、ねらいは、スタンプを押すことを楽しむことだったのではないかな。</li> <li>・ 子どもがイメージを言葉で説明することは難しいということを思った。何を言おうとしているのか、何をやろうとしているのか等、その子の思いをくみ取る姿勢が大切である。</li> </ul> |

### 【保育研究会から気付いたこと】

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対話を意識した問いかけを行うと、子どもはよく話を聞くことができる。</li> <li>・ 子どもの内面を理解することで、いろいろな側面からの支援や指導が可能になる。</li> <li>・ 子どもを指導するためには、計画的な準備と日ごろの温かいかわりやコミュニケーションの積み重ねが大切である。</li> <li>・ 身近な教材は、子どもを引きつける。既存の経験や体験を本時とつなげるという取組を積み重ねることによって、伝え合う力がはぐくまれていく。</li> <li>・ 子どもの発想を受けとめる保育者や教師の柔軟性が必要である。</li> <li>・ 言葉にならなくても、何を言おうとしているのか、何をやろうとしているのか等、その子の思いをくみ取ってあげる姿勢が大切である。</li> <li>・ 子どもの話をよく聞き、気持ちを受けとめて指導することが大切である。</li> <li>・ 野菜スタンプの活動は、小学校の図工でも実施するが、今回のように園児が十分に納得いくまで活動していると、小学校での活動がより豊かになるのではないかな。</li> <li>・ 保育や授業を互いに参観し合い、協議をすることは相互理解の意味で有意義である。</li> </ul> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

### 【今後の課題】

|                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導法や指導技術について、幼稚園・保育所・小学校それぞれにおいて、具体的にどのようにしているのか、情報交換していきたい。</li> <li>・ 発達段階に応じて、わかりやすい言葉でねらいを伝え、興味・関心が継続できるよう保育・授業の改善を図りたい。</li> <li>・ 一つのことに對して皆で意見を述べ合うことは、自分の保育・授業を振り返るよい機会にもなるので、今後もテーマを絞った話合いの機会をもちたい。</li> </ul> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 実践事例 2 野木町

### 小学校の授業改善に向けて～ 5つのポイント～

研究協力校、園

野木町立友沼小学校

学校法人 栄孝学園 野木幼稚園

#### 保育・授業研究会と成果の概要

( 内は参加者の感想等)

##### 第1回授業研究会(友沼小学校) 5月26日

- ・ 第1学年 国語 「たんけんしたよ みつけたよ」

本時のねらい：見つけたことを書いたり話したりして友達に知らせ、文字や言葉による伝え合いの楽しさを知る。

- ・ 幼児期の子どもは、楽しかった経験を自分なりの言葉で話そうとする。その自発性を書く活動につなげていくことが、幼・保・小の連携の取組として大切であるということがわかった。
- ・ 幼稚園・保育所で育てた力を、小学校でどのように生かせばよいのかを考えていくことが大切である、ということが理解できた。
- ・ 子どもの立場に立って授業の様子を話し合うことができた。

##### 第2回保育研究会(野木幼稚園) 7月6日

- ・ 年長 「自然の森で、もぐらごっこで遊ぼう」

今日のねらい：砂と土との違いに気付く。

自分の感じたことを伝える。

木の根や小さな虫、まわりの野草に触れる。

P.20 参照

##### 第3回保育研究会(野木幼稚園) 9月14日

- ・ 年少 「リズムあそびと楽器作り」

今日のねらい：身の回りの自然のものを使い、いろいろな音色を聞く。

曲に合わせて自由に表現する活動を通して、表現する楽しさを味わう。

- ・ 一人の子どもがつぶやきが刺激となって活動が広がっていった。子ども同士で刺激し合い学び合う場を設定することの大切さがわかった。
- ・ 普段から、子どもの自発性を大切にしているか、という視点で保育を評価することが大切であることがわかった。

第4回授業研究会(友沼小学校) 10月12日

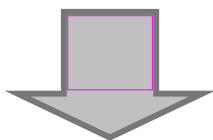
- ・第2学年 算数 「三角形と四角形」  
本時のねらい：具体的な活動を通して三角形と四角形を理解する。  
格子点を用いて書いたり、紙を用いて作ったりするなど、三角形や四角形についての基礎的な経験を豊かにする。

P.22 参照

第5回授業研究会(友沼小学校) 11月16日

- ・第3学年 算数 「かけ算の筆算(1)」  
本時のねらい：3つの数のかけ算の仕方を考える。

- ・「もっと他のやり方はないかな。」の一言で、子どもの活動が活発になった。また、グループの友達の意見で自分の間違いに気付き、他の方法を探っていた。子どもの気付きをできるだけたくさんとらえることが、授業を豊かに成立させることにつながるということがわかった。
- ・「子どもが意味をつくっている」という指導助言者の言葉は、子どもが学ぶということはどういうことかを考えるきっかけになった。



保育・授業研究会を生かした取組

取組 成果を洗い出し、年長児からの伝え合い活動の指導内容(例)を作成する。

(P.18 参照)

取組 小学校の授業改善のポイントを整理する。(P.19 参照)

## 取組 ①

### 【成果の確認】

- 1 保育や授業を子どもの学びとしてとらえることにより、教師がどう教えたかという視点に加え、子どもがどのように学んでいるかという視点がもてた。
- 2 幼稚園と小学校の教師が、子どもはどのように反応し、理解し、学んでいたか、という共通のテーマをもって研究に取り組むようになった。
- 3 町内の小中学校への広がりがみられた。

### 【具体的な取組例】

平成19年度の学校課題として「一人一人の児童の学びの保証」を上げた学校があり、宇都宮大学や総合教育センターの先生方に指導をいただきながら学びの共通理解、授業研究を進めている。

国語、社会、算数・数学、英語活動などの授業で学び合いを視点とした研究が見られる。また、小学校と中学校との学びの連続性に着目する動きもある。

- 4 幼・保・小連携では、幼児期の子どもの学びを小学校の学習等に生かしていくことが、大切であることがわかった。そこで、友沼小学校の評価規準を基に、年長児からの伝え合い活動の指導内容の目安となる一覧表を作成した。具体的には、次のとおりである。

### 【年長児からの伝え合い活動の指導内容（例）】

| 年長児                    | 小学校低学年                           | 小学校中学年                                        | 小学校高学年                                                        |
|------------------------|----------------------------------|-----------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|
| ○相手の話を聞く               | ○相手の話を最後まで聞く                     | ○相手の話を自分の考えと比べながら聞く                           | ○相手の話を要点をおさえながら聞く                                             |
| ○相手に向かって話す<br>・相手の顔を見る | ○相手に聞こえる声で話す<br>・体の向きや声の大きさを意識する | ○相手にわかるように話す<br>・具体物などを用いる<br>・ときには、相手の同意を求める | ○相手に意図が伝わるように話す<br>・資料を活用したり、例を示したりする<br>・相手の考えを引用したり、まとめたりする |
| ○自分の考えを話す<br>・自分の考えをもつ | ○自分の考えをはっきり話す<br>・自分の考えを明確にする    | ○自分の考えを詳しく話す<br>・理由をつける<br>・順序やつながりを表す言葉を使う   | ○自分の考えを根拠を明確にして話す<br>・根拠となる事実をもとにする<br>・適切な言葉で考えをまとめる         |

## 取組

小学校の授業改善に向けての5つのポイントを明らかにすることができた。具体的には、次のとおりである。

「授業を見る視点の転換を図る。」は、改善の根拠となった算数の授業の場面

通常、授業を通してどう教えるかということに目が向きがちであるが、子どもは、どのように思考し理解しているかを考えて、指導方法を考えていく。教師が考えていることと子どもの認識にはズレがある場合もある。子どもの側から学びをとらえようとする視点の転換が必要である。

十分に作業・体験させ、気づきや意見をもたせる。

グループでの話し合い活動が活発に行えたのは、その前に各自が四角形を切り取るという活動を行ったからである。その際に、子どもが熱中したり、自由な発想をしたりできるような教材が与えられていることが大切である。自分が夢中になったことに関しては、子どもは自信をもって意見を言うことができる。

子どもの反応に対し、柔軟な対応をする。

本時の授業は「三角形と四角形」についての内容ではあったが、グループでの活動でほとんどの班が五角形について論議していた。また、五角形を作ることこだわる子どもも見られた。このようなときは、子どもが一番興味をもっていることに触れ、その思いを満たしながら、ねらいが達成できるように指導することが大切である。そうすることによって次の学年へのステップができるのである。図形の分野などでは、今、学習したことが次につながっていくという視点で考えていく。

教師は子どもが考えている間は待つ。

どうやったら五角形が作れるかに夢中になっている子どもに対し、活動の時間を十分に確保した。この子は五角形を作った後、グループのリーダーになって話し合いをまとめていた。もし途中でやめさせていたらこのグループの話し合いは深まらなかっただろう。子どもが思考しているとき、教師は待つ姿勢が大切である。

子どもの発想から正解を導く。

五角形という言葉は学習していなかったため、子どもは「直線が5本の形」「5本の線で囲まれた形」「5つの角と5本の線」などと自分の言葉で表現していた。子どもは自由に発想しながら、五角形の特徴に気付いていた。また、分類したものに対して「題をつけよう」と働きかけた担任の一言で子どもの図形への認識が確かなものになった。

# 資料

## 【第2回保育参観記録（抜粋）】

|        |                                          |     |           |
|--------|------------------------------------------|-----|-----------|
| 実施園    | 野木幼稚園                                    | 実施日 | 平成18年7月6日 |
| 参加者・人数 | 幼稚園教諭、幼稚園長、保育士、小・中学校教諭、大学教員、指導主事<br>計21名 |     |           |

|        |                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                              |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 活動名・学年 | 「自然の森で、もぐらごっこで遊ぼう」(年長)                                                                                                    |                                                                                                                                                                                              |
| 今日のねらい | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 砂と土との違いに気付く。</li> <li>○ 木の根や小さな虫、まわりの野草に触れる。</li> <li>○ 自分の感じたことを伝える。</li> </ul> |                                                                                                                                                                                              |
| 時刻     | 子どもの主な活動                                                                                                                  | 子どもの反応（つぶやき・会話など）                                                                                                                                                                            |
| 10:15  | 1 絵本を読んでもらう。                                                                                                              |                                                                                                                                                                                              |
| 10:30  | 2 松原自然の森へ出発する。                                                                                                            |                                                                                                                                                                                              |
| 10:40  | 3 スコップで土掘りをする。                                                                                                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ もぐらになって幼虫、虫、木の根を見つける。「幼虫だ」「いも虫だ」「何これ」「虫は土が好き、虫かごに土を入れるよ」「くわがたの幼虫だ」「かぶとむしの幼虫だ」「だんご虫は、さわるとすぐに丸くなる」「もぐらは奥にいるよ」「根っこ発見」「ここがあやしいぞ」「かたい根っこがあった」</li> </ul> |
|        | 泥だんご作りをする。                                                                                                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 土掘りから泥だんご作りが始まる。「水をかけるとだんごになる」「土はだんごになりやすいよね」「グミみたいだ」「水を多くすると掘りやすい」「ここは柔らかいよ」「ゴクンゴクンと飲んだみたいだ」「苦いコーヒー」「砂はサラサラ」</li> </ul>                            |
|        | 草ずもうをする。                                                                                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「草の引っ張り合いだ」</li> <li>・ 「この草は強い」</li> </ul>                                                                                                          |
|        | 笹舟を作る。                                                                                                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「早く流れる」「まっすぐ進む」</li> </ul>                                                                                                                          |
| 11:20  | 4 どんなことをして遊んだか話し合う。                                                                                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「楽しかった」「また行きたいね」「お母さんに教えてあげる」「気持ちよかった」「たくさん虫を見つけたよ」</li> </ul>                                                                                      |
| 11:30  | 5 園に戻り、絵を描きながら活動の振り返りをする。                                                                                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 川にいたアマガエルやどじょう、アメンボ、だんご虫、ムカデなどを画用紙描く。また、アメンボになった気分で、体で動きを表現していた。</li> </ul>                                                                         |

## 【保育研究会での主な意見】

|       |                                                                                                                                                          |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 担任    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 天気がよい自然の森で、砂と土の違いを感じたり、虫や草木などにふれることが今日のねらいである。園児は、「砂はサラサラ」「土はだんごになりやすいよね」「根っこ発見」「草の引っ張り合い」などと表現していた。</li> </ul> |
| 小学校教諭 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもが納得するまで遊ばせることは、小学校では難しいが幼稚園ではでき</li> </ul>                                                                   |

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 保育士   | <p>る。十分な活動の後に理論を提示していた。環境教育や生命の尊重は、たくさん活動させてから理論を示すので、今日の活動と類似している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児クラブで0～3歳に接した子が成長し、とてもしっかりしていた。特に、だんご作りは、経験の差が大きいので、全員が参加することは難しいが、担任がよく声をかけていた。</li> </ul>                                                                                                                 |
| 幼稚園教諭 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水を穴に入れたときの「ゴクンゴクンと飲んだみたい」という表現はよかった。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                      |
| 小学校教諭 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 泥だんご作りでうまくいかなかったA子は日本語が苦手であったが、先生が手をつなぐなどして、よくかかわっていた。</li> <li>・ 森を一回りしてから始めるのがよかったのではないかと。子どもなりに森全体の様子を把握し、笹舟作りなどで自然を楽しんでいた。また、担任は配慮が必要な子どもに温かく対応していた。</li> </ul>                                                                                                                  |
| 担任    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもたちは、「苦いコーヒー」「水の行方」など楽しい表現をしていた。</li> <li>・ 小学校でも、子どもの豊かな表現が生まれるような活動が必要である。</li> <li>・ 自分のクラスならば、子どもが散らばってしまいそうで不安である。</li> <li>・ はじめは、あの場所に連れて行くのは不安があった。散歩でいろいろ見回り遊ばせながら、子どものペースで4月から行動させるうちに、森のイメージが次第に頭に入ったようである。</li> <li>・ 絵本を日ごろから読んでいるので、絵本からも今日の活動内容をつかんだと思う。</li> </ul> |
| 保育士   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育所の子どもたちも誕生会などで話が聞けるようになった。0歳児でも聞きたいと思うときは聞く態度をとることができる。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                 |
| 小学校教諭 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 土、砂の感覚の違いに気付くというねらいをつかんでいた。また、虫を扱うときに生命の大切さに気付くような指導も必要である。</li> <li>・ 今回は活動に満足してから次の活動に進んだので落ち着きがあった。</li> </ul>                                                                                                                                                                    |
| 幼稚園長  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日ごろから自然を愛する子どもに育てたいと思っている。最近は、ねじり花や虫などに気付くたびに報告に来るようになった。これからも、自然とかかわる教育に力を入れていきたい。</li> </ul>                                                                                                                                                                                       |
| 大学教員  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師は子どもの反応に柔軟に対応しながら、ねらいにせまっていくことが必要である。このことを研究することが小学校の課題といえる。例えば、教科書にある教材では、理解できない児童もいる。そのようなときは、教材を組み替えることも可能であろう。また、ねらいを見直してほしいので、このことも研究対象といえる。</li> <li>・ 幼稚園や保育所は十分に体験や活動をしているが、学びを深める努力が必要であろう。</li> </ul>                                                                    |

### 【保育研究会から気付いたこと】

- ・ 活動前の読み聞かせにより、問題意識をもたせたことでモグラの穴のイメージになった。
- ・ 満足するまで遊んだり体験したりできる保育が実現していて、子どもの感性が豊かに育っている。このような幼稚園のよいところを小学校がどのように継続するかが課題である。
- ・ 小学校は、子どもに添ったもっと柔軟な指導を研究すること、幼稚園や保育所は、子どもの学びを深める努力が必要である。
- ・ 連携の視点からみると、小学校の生活科でどのようなことを生かせるか、また、生活科との違いは何かを明確にすることが大切である。
- ・ 泥遊びからだんご作りの活動になり、最後に砂と泥の違いに気付いた活動では、遊びから学びが生まれるプロセスが見られた。

**【第4回授業参観記録（抜粋）】**

|        |                                       |     |             |
|--------|---------------------------------------|-----|-------------|
| 実施校    | 友沼小学校                                 | 実施日 | 平成18年10月12日 |
| 参加者・人数 | 幼稚園教諭、保育士、小学校教諭、町議員、大学教員、指導主事<br>計25名 |     |             |

|        |                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |  |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 単元名・学年 | 「三角形と四角形」（第2学年）                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |  |
| 本時のねらい | ○ 具体的な活動を通して、三角形や四角形について理解する。<br>○ 格子点を用いて描いたり、紙を用いて作ったりするなど、三角形や四角形についての基礎的な経験を豊かにする。 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |  |
| 時刻     | 学習活動                                                                                   | 子どもの反応（つぶやき・会話など）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |  |
|        | <div>四角形を直線で切って、2つに分けよう。</div>                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |  |
| 14:00  | 1 三角形を切ったときを思い出して、四角形を切るとどんな形になるか考える。                                                  | ・ 「三角形ができそう」<br>・ 「四角形ができそう」                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |  |
| 14:10  | 2 四角形を2つに切って三角形や四角形を作る。                                                                | ・ 「あと1つ思いついた」                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |  |
| 14:15  | 3 グループになって自分たちの切り分け方をパターン別にまとめる。                                                       | <div>A班</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・ それぞれにできた形を分け始める。<br/>「四角形と四角形」<br/>「三角形と三角形は？」<br/>「これも」三角形と四角形のものを出す。<br/>「これは四角形だよ。だって1, 2, 3, 4」<br/>頂点を指して数える。</li><li>・ 「これは？」全員で三角形と五角形をどうするか悩む。<br/>三角形だけ持って「三角形に入れる？」<br/>三角形と五角形一緒に「これで1つにしたら？」</li></ul> <div>B班</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 「すご~い。一体どうやってできたの、五角形なんて」<br/>「わかんないけど、できちゃったんだよ」</li></ul> <div>C班</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 早くたくさん作ろうと頑張っていた C 男だったが、グループ分けをしようと後ろを向くと、五角形を作った子がいたので、五角形を作ることに夢中になってしまう。同じ班の友達が声をかけても「ちょっと待って」と言う。</li><li>・ 五角形ができた後、C男を中心に話合いが始まった。</li></ul> |  |

|       |                                |                                                                                                                                                                                                          |
|-------|--------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       |                                | <div>D班</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>できた形を紙に貼り、題名をつけようとしていて、何と呼んでいいのかわからない形（五角形）ができた。「五角形じゃないよね」おずおずと言う子どもがいてもみんな自信がない。「5本の線で囲まれた形」「5つの角と5本の線」「三角でも四角でもない」など、ポツリポツリつぶやきが出てくる。</li> </ul> |
| 14:30 | 4 各グループでまとめた切り分け方を説明して、黒板に貼出す。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>「四角形が2つできました」</li> <li>「三角形2つ」</li> <li>「三角形と四角形」</li> <li>「直線が5本の形と三角形に分けました」</li> </ul>                                                                         |
| 14:40 | 5 貼り出された図形を見て、気付いたことを発表する。     | <ul style="list-style-type: none"> <li>「5本の直線と3本の直線で囲まれた図形ができた」</li> <li>「三角形と五角形ができた」</li> <li>「B班と同じだ」</li> <li>「五角形ができるなんて予想外だ」</li> </ul>                                                            |

#### 【授業研究会から気付いたこと】

- 子ども一人一人を見つめることは大切である。今回の研究が始まってから子どもへの目線が変わり、授業の見方も変わった。教材研究の根拠は子どもの学びを保証するためのものでなければならない。授業者が、子どもについて自分の見取りと参観者の見取りの違いに気付き、それを確認していく姿勢が必要である。
- 多くの教師の目があると、子どもの小さなつぶやきや活動中の変化がよく見取れる。今回のような研究会を積む中で観察力がつき、子どもの活動の予想をしたり、支援したりする力が伸びてくるだろう。
- それぞれのグループごとに様々な話合いの展開が見られ、子どもの発想の豊かさを感じた。日ごろより子ども同士のコミュニケーション力を育てているためだろう。
- 子ども同士の学び合いという点では、四角形を2つの形に分けられなかった子どもも他の意見を聞いて理解することができていた。グループで確認し合う姿も見られた。話し合うことで気付きも生まれた。「なるほど、そんな形もあるんだ」という喜びにつながっていた。

#### 【今後の課題】

- 子どもの学ぶ姿を追究していくことを研究の中心として進めていきたい。
- 子ども一人一人について多くの目で確認することが大切なので、研究授業では子どものつぶやきや姿を細かく記録していく。
- コミュニケーション力の観点から子どもの実態調査を行い、課題を明らかにし、伝え合い活動の実践に生かしていく。

### 実践事例3 塩谷町

自分の思いを伝え合う仲間づくりをめざして  
～ 友達の話っておもしろい・聞いてもらえるって気持ちいい～

研究協力校、園

塩谷町立船生東小学校

塩谷町立塩谷幼稚園

#### 保育・授業研究会と成果の概要

(    内は参加者の感想等 )

##### 第1回保育研究会(塩谷幼稚園) 5月10日

- ・年少 「自分の好きな遊びをしよう」  
今日のねらい：園生活の流れがわかり、先生や友達と一緒に活動することを楽しむ。
- ・ 一人一人が楽しんだという実感を味わうことが、子どもの活動のエネルギーとなる  
ということを再確認できた。
- ・ 子どもは、自発的な活動としての遊びを通して、自分の思いを共有できる相手をも  
つことができた。自分からやりたいという遊びへの意欲が人とのかかわりを広げてい  
くことがわかった。

##### 第2回授業研究会(船生東小学校) 6月30日

- ・第1学年 国語 「きいてきいて・よんでよんで」  
本時のねらい：休み時間にしたことを友達の前で発表したり、友達の発表を聞いた感想  
を言ったりすることができる。

P.28 参照

##### 第3回授業研究会(船生東小学校) 10月5日

- ・第5学年 国語 「ニュースを伝えよう」  
本時のねらい：取材したことや考えたことをわかりやすく伝えることができる。  
話し方の工夫に気を付けながら聞くことができる。
- ・ 子どもは、温かい学級経営の下、自分の考えを自分の言葉で、喜んで話していた。  
自分の考えを安心して話せる集団づくりが大切だとわかった。
- ・ 今後、子どもには聞き手の反応を見ながら伝えることができるよう、わかりやすく  
伝える経験を積ませることが大切であるということを共通理解できた。

#### 第4回保育研究会(塩谷幼稚園) 12月1日

・年長 「みんなの発表会」

今日のねらい：発表会の小道具作りを通して、クラスみんなで一つの目的に向かって取り組む楽しさを味わう。

P.30 参照

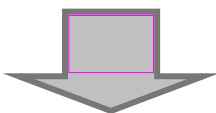
#### 第5回授業研究会(船生東小学校) 1月17日

・第3学年 国語 「よりよい暮らしについて話し合おう」

本時のねらい：考えたことや調べたことを発表し、発表を聞いた人たちからの質問に答えることができる。

話している人が伝えたいことは何か考えながら聞き、質問したり意見を述べたりすることができる。

- ・ 子どもは、話し合いに向けて多くのことを進んで調べることができていた。今後は、どうしたら相手に伝わるか、子ども同士で話し合ったり、話し方を練習したりするとよいことがわかった。
- ・ 幼・保・小の連携で大切なことは、お互いのねらいのもち方や指導方法の違いがわかることである。その違いを理解した上で連携を進めていくことが大切であることがわかった。



#### 保育・授業研究会を生かした取組

取組 自分の思いを伝え合うことができる仲間・集団づくりを目指して、幼稚園・小学校で一貫して指導したい内容を共通理解し一覧表を作成する。(P.26 参照)

取組 一覧表をもとに、掲示用の表を作成する。(P.27 参照)

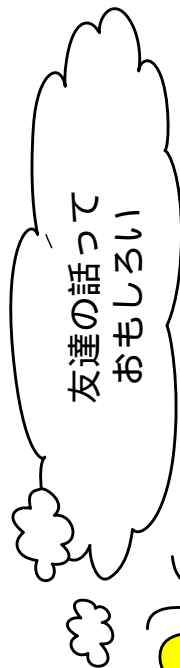
# 「自分の思いを伝え合う仲間づくり・集団づくり」

(キャッチフレーズ)

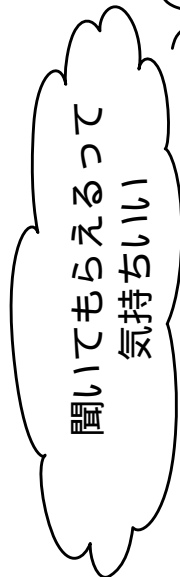
友達の話っておもしろい・聞いてもらえるって気持ちいい

|          | 年長児(1～3月)                                                                                                                                                                                                                                                              | 1年生(4～6月)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 経験させたいこと | <p>2～3人の仲間で、自分の経験や体験を話す。<br/>遊びの中で自分の考えや意見を主張したり、相手の意見や主張を受け入れたりする。<br/>教師による絵本や紙芝居の読み聞かせ、簡単な話(指示や説明)を聞く。</p>                                                                                                                                                          | <p>自分の考えたことや感じたことを、多くの人に対して話す。<br/>ある程度の量や内容のある、教師の話最後まで聞く。<br/>話合いの場で、友達の話を最後まで聞く。</p>                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 活動例      | <p>劇遊び<br/>(ねらい)<br/>みんなで一緒に劇遊びをする中から、話す楽しさを味わう。<br/>(ポイント)<br/>劇遊びの中のせりふを借りて発表し、言葉のリズムのおもしろさや、思いを言葉にする心地よさを楽しむような活動を構成する。<br/>ルールのある遊び<br/>(ねらい)<br/>子ども同士でルールを相談したり、友達の遊びを取り入れたりしながら、集団遊びを十分に楽しむ。<br/>(ポイント)<br/>自分たちの力で遊びが展開できるよう、子ども同士で話し合ったり、共感し合える場を大切にしていく。</p> | <p>1分間スピーチ<br/>(ねらい)<br/>多くの人に対してわかりやすく話す力を身に付ける。<br/>(ポイント)<br/>聞いている人にわかりやすく伝えたいという気持ちや意欲をもたせるようにする。<br/>毎時間の授業<br/>(ねらい)<br/>話すこと・聞くこと・話し合うことの基礎的・基本的な能力を身に付ける。<br/>(ポイント)<br/>よい話し方・よい聞き方について理解し、実践しようという気持ちをもたせるようにする。<br/>朝の会・帰りの会<br/>(ねらい)<br/>連絡・伝達の実践を重ね、伝え合う力を高める。<br/>(ポイント)<br/>よりよい話し方・聞き方を意識させ、伝え合うことの大切さが実感できるようにする。</p> |
| 日常の指導    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ トラブルなどの場面で適切な言葉が言えるようにする。</li> <li>・ グループで遊ぶ機会を多く設定し、その中で自分の力を十分発揮している姿を認める。</li> <li>・ 自分の思いを表現できないでいる子どもには、保育者がその子どもの思いを把握し、周りに伝えたり気付かせたりしていく。</li> </ul>                                                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な場面で適切な言葉を使うことを意識させるようにする。</li> <li>・ 伝達の手段としての言葉の有用感を実感させるようにする。</li> <li>・ 適切な言葉の使い方について考えることができるよう、場面を振り返りながら指導する。</li> </ul>                                                                                                                                                              |

幼稚園・小学校で確認し合った内容を日常の指導に生かせるように、保育室・教室に掲示することにした。  
そのため、次ページのような、わかりやすく見て楽しい表にした。



## 自分の思いを伝え合う



### 劇遊び

～話す楽しさ～  
登場人物になりきって、せりふを言うこと  
の楽しさが味わえるようにする。

### ルールのある遊び

～相談し了解しながら遊ぶ～  
自分たちの力で遊びが展開でき  
るよう、話し合い共感し合  
える場を大切にしていく。

### 一分間スピーチ

～わかりやすく  
話す～  
聞き手にわかりやすく伝えたいという気  
持ちや意欲がもてるようにする。

### 授業中

～話す・聞く・伝え合  
う力の基礎・基本～  
よい話し方・よい聞き  
方について理解し、実  
践しようという気持ち  
がもてるようにする。

### 朝の会・帰りの会

～伝え合う力を  
高めよう～  
よりよい話し方・聞き  
方を意識し、伝え  
合うことの大切さが  
実感できるように  
する。



## 年長児(1～3月)

小集団で自分の経験や体験を話す。

遊びの中で自分の考えや意見を主張したり、  
相手の意見や主張を受け入れたりする。

教師がする絵本や紙芝居の読み聞かせ、簡  
単な話(指示や説明)が聞ける。

## 1年生(4～6月)

自分の考えたことや感じたことを、多くの人に対し  
て話す。  
ある程度の量や内容のある教師の話が最後まで聞け  
る。

話合いの場で友達の話が最後まで聞ける。



## 経験させたいこと

## 日常の指導

- ・トラブルなどの場面で適切な言葉が言えるようにする。
- ・グループで遊ぶ機会を多く設定し、その中で自分の力  
を十分発揮している姿を認める。
- ・自分の思いを表現できないでいる子どもには、保育者  
がその子どもの思いを把握し、周りに伝えたり気付け  
たりしていく。

・いろいろな場面で、適切な言葉を使うことを意識させる  
ようにする。

- ・伝達の手段としての言葉の有用感をもたせるようにする。
- ・適切な言葉の使い方について考えることができるよう、場  
面を振り返りながら指導する。

# 資料

## 【第2回授業参観記録(抜粋)】

|        |                            |     |             |
|--------|----------------------------|-----|-------------|
| 実施校    | 船生東小学校                     | 実施日 | 平成18年 6月30日 |
| 参加者・人数 | 幼稚園教諭、小学校教諭、大学教員、指導主事 計13名 |     |             |

|        |                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|--------|--------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 単元名・学年 | 「きいてきいて・よんでよんで」(第1学年)                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 本時のねらい | ○ 休み時間にしたことを友達の前で発表したり、友達の発表を聞いた感想を言ったりすることができる。 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 時刻     | 学習活動                                             | 子どもの反応(つぶやき・会話など)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 14:00  | 1 本時のめあてを確認する。                                   | ・ 休み時間にしたことを思い思いに話している。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 14:05  | 2 発表するときや発表を聞くときの約束を確認する。                        | ・ みんなで読んで確認している。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 14:10  | 3 発表の練習をする。                                      | ・ 二人組になって練習する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 14:15  | 4 発表したり感想を言ったりする。                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「昼休みにサッカーをしました」</li> <li>・ 「足を上げたと言いましたが、足や背中には痛くありませんでしたか」</li> <li>・ 「痛くありませんでした」</li> <li>・ 「昼休みにブランコに乗り、桜の木までこぎました」</li> <li>・ 「どのくらいまでこいだのですか」</li> <li>・ 「桜の木が足につきました」</li> <li>・ 「涼しかったですか」</li> <li>・ (写真を見て)「どうして足が曲がっているのですか」</li> <li>・ 「力いっぱいこいだからです」</li> <li>・ 「昼休みに鉄棒をしました。手を放したとき、うれしかったです」</li> <li>・ 「落ちませんでしたか」</li> <li>・ 「はい」</li> <li>・ 「足は、痛くありませんでしたか」</li> <li>・ 「痛くありません」</li> <li>・ 「世界は反対に見えませんでしたか」</li> <li>・ 「見えました」</li> </ul> |
| 14:35  | 5 本時の学習を振り返る。                                    | ・ 振り返りカードに記入する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |

### 【授業研究会での主な意見】

|       |                                                                                                                                                                                                |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 担任    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時はいくつもの内容を盛り込んだが、発表の時間は十分だっただろうか。</li> <li>・ 約束を徹底させ、それに従って指導しようと考えたが、子どもにとって話しやすい指導になっていたか。</li> <li>・ 練習の時間・自己評価の時間を設けたことについて意見をいただきたい。</li> </ul> |
| 幼稚園教諭 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 落ち着いて４５分間座って意見を述べていた。子どもたちは話をするのが大好きで、幼稚園では自分なりの表現を受け入れている。小学校では、「です・ます」をつけてという決まりがあるけれど、ギャップがあるのではないか。</li> </ul>                                    |
| 小学校教諭 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 練習のときに自己評価することもできるし、また、質問の練習をすることもできた。</li> </ul>                                                                                                     |
| 大学教員  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師の話の聞き取り方が大切である。子どもがどのような考えをしているか教師が理解することが大切である。話し方は、よくできている。表現力が高いのではないか。</li> </ul>                                                               |
| 幼稚園教諭 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 聞き手も発表者の話の内容を真剣に聞き、質問をしていた。ねらいが達成されたのではないか。</li> </ul>                                                                                                |
| 指導主事  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 後半、手を挙げる子が多くなった。どうしてか見極める。友達が自分の話に関心を示してくれたので活発になった。</li> </ul>                                                                                       |
| 大学教員  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 聞くことに楽しみが出てきたため、活発になった。</li> </ul>                                                                                                                    |
| 指導主事  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ よい人間関係がつけられていることにより、質問がよくできたのではないか。</li> </ul>                                                                                                        |
| 指導主事  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同じような意見でも、一人一人が話をするということが大切である。評価規準は、具体的な姿でシンプルでよい。</li> </ul>                                                                                        |
| 大学教員  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話し方のスキルだけを指導しても相手が聞いてくれる話ができるようになるとは限らない。よい人間関係をつくる必要がある。</li> </ul>                                                                                  |

### 【授業研究会から気付いたことと今後の課題】

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話す場面において、小学校の「です・ます」の話し方は、入学直後の子どもにとってギャップとなる。</li> <li>・ ある程度のギャップは子どもの成長に必要なだが、ギャップが大きすぎないことが大切である。</li> <li>・ 子どもの話す意欲を高めるためには、よい人間関係をつくることが大切である。</li> <li>・ 話す・聞くスキルを学習するときには、興味のある題材は欠かせない。</li> <li>・ ハンドサインは万能ではないが、効果的に活用するとよい。</li> <li>・ 教師は子どもの発言を自然に受け入れることが大切である。</li> <li>・ 入学で環境が変わった子どもたちには、過度な要求と必要以上の世話は控える。</li> <li>・ 短い時間でも違う立場からの意見を聞き合い、話し合うことが重要である。</li> </ul> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【第4回保育参観記録（抜粋）】

|        |                                                        |     |            |
|--------|--------------------------------------------------------|-----|------------|
| 実施園    | 塩谷幼稚園                                                  | 実施日 | 平成18年12月1日 |
| 参加者・人数 | 幼稚園教諭、保育士、小学校教諭、大学教員、指導主事 計38名<br>(塩谷町幼保小連絡協議会研究会をかねる) |     |            |

|        |                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|--------|-----------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 活動名・学年 | 「みんなの発表会—発表会に向けての小道具作り—」(年長)                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 今日のねらい | ○ 発表会の小道具作りを通して、クラスみんなで一つの目的に向かって取り組む楽しさを味わう。 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 時刻     | 子どもの主な活動                                      | 子どもの反応(つぶやき・会話など)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 10:00  | 1 活動の確認                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>発表会に使う小道具として、山・川・草を3つのグループに別れ、大きなダンボールで作ることにした。</li> <li>一人一人筆を持ち、塗っていた。草グループの子どもが、絵の具を直接ダンボールにあけ、それを筆で広げていた。それを川グループの子どもが見ていて「床に(絵の具を)まいて塗っているよ」と周りの子どもに伝えていた。すると、広い場所を塗るのには、筆を使うより手や足を使った方が早いということを見出す。それが、草・川・山へと伝わり、みんなが楽しんでやっていた。</li> <li>絵の具が手足・遊び着などについた様子を見て「宇宙人みたい」と笑い合っている。</li> </ul> |
| 10:05  | 2 材料・用具のアドバイス                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 10:10  | 3 色塗り                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 11:30  | 4 片付け                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>十分に遊んだ後の片付けは、子どもが自らきれいにしていた。それも、クラス全体に広がっていった。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                         |

【保育研究会での主な意見】

|       |                                                                                                                                                                                                                                        |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 担任    | <ul style="list-style-type: none"> <li>発表会の劇(3びきのやぎのガラガラドン)に必要な物は何か話し合った結果、山・川・草を大きな紙で作ることになった。前日、色と塗る場所について、子どもと話し合った。しかし、いざ始まると、活動がエスカレートして、手や足で塗り始めた。友達と協力し考えを出し合うことで、皆でやったという満足感を味わってほしいと思ったが、担任の意図がどれだけ子どもに伝わったか心配である。</li> </ul> |
| 小学校教諭 | <ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人、のびのび活発に活動している姿を見せてもらった。私だったら、床を汚したら「早く掃除しなさい」と言ったと思う。規制せず、まずやりたいことをどんどんやらせるという方法もあるのだと思った。</li> </ul>                                                                                      |
| 保育士   | <ul style="list-style-type: none"> <li>絵の具と紙を子どもの前に用意したら、子どもがどんなふうになるのか予想することや、今日の保育について、事前に園内研修をすることが重要なのではないかと。自主的にのびのびと明るく元気に活動してほしい。でも、自由の中にも規制はある。水道の使い方や順番・順序も頭に入れておく必要もあるだろう。</li> </ul>                                        |
| 担任    | <ul style="list-style-type: none"> <li>今日、こんなことをやるということを子どもはわかっていたと思う。</li> </ul>                                                                                                                                                      |

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 大学教員  | <p>昨日の話合いのことを頭に入れて活動して欲しいという願いもあったが、絵の具を使う楽しさにどっぷりと入ってしまった。最後は「足も床も汚れてるけどどうする？」と声をかけると、「きれいにする」と言うので、そのまま水道に行かせた。その後の雑巾がけは「自分たちでする」と言っただけに最後まできれいにしていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手足を使って思いっきり床全体に絵の具を塗ってしまったことは、望ましくないと思うことなのだろうか？私は、汚すからいけないとは思わない。人と相談せず、自分の思い思いに活動して、足で塗って広がって、クラス全体の活動になった。仕切ろうとしていた子どもすっかり子どもらしい顔になっていて、満足感や充実感を感じているなと思った。今日のねらいに迫ることとの折り合いで、担任が我慢して子どもたちの出方を待った。子どもにとってこのような経験は必要な経験であり、型にはめて目的達成しても、意味がないのではないかな。</li> </ul> |
| 小学校教諭 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ねらいはあったが、体の感覚で確かめて楽しんでいた。後片付けは、もう十分に楽しんだので意欲的だった。一人の子どもがやっていたら、「○○ちゃん上手だね」「ねえ！見て○○ちゃんが・・・」と言って、気付かせるのが教師の役割ではないか。保育の中で、子どもがやっていることは、授業中なら意見である。小学校で、「ああ自分も同じだ」あるいは「自分は違う」という意見を言えるようになるのは3年生ぐらい。教師は、丁寧に話を聞いてやること、先生はちゃんとわかっているよ、というシグナルを発することが大事である。</li> </ul>                                                                                                                                                                |
| 大学教員  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 汚す子どもは、生活習慣が身に付くのが遅いのではないかなどと心配になる必要はないのではないかな。生活習慣は後からついてくると考える。友達とのやりとりができる子に育てることが大切である。先回りして教えなくてもいいのではないかな？</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |

### 【保育研究会から気付いたことと今後の課題】

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自由に活動する中でも、きまりや約束を守ることやけじめをつけることを考えて指導する。</li> <li>・ 活動を通して友達関係を広げ、聞いたり伝えたりする力を育てるという視点も大切である。</li> <li>・ 活動のポイントを確認したり、活動の流れを軌道修正する時間も必要である。</li> <li>・ 子どもの自発的な学びを導くような指導が大切である。</li> <li>・ この時期にしかできないことをしっかり指導する必要がある。</li> <li>・ 小学校入学に当たって、指導を必要とする点については、幼・保・小で共通理解していく。</li> <li>・ 規範意識を育てるため、どうしてそうするのかを子どもに考えさせることが大切である。</li> </ul> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 話し合うことで見えてきた子どもの姿 ～「話す」「聞く」の観点で～

研究協力校、園

足利市立名草小学校、足利市名草保育所

### 保育・授業研究会と成果の概要

( 内は参加者の感想等)

#### 第1回保育研究会(名草保育所) 6月6日

- ・ 年長・年中・年少・乳児 「リズム遊びをしよう」
- ・ 今日のねらい：曲を聴き、イメージを膨らませながら体を動かすことを楽しむ。  
異年齢児とかかわる中で、小さい友達を思いやりながら共に楽しく過ごす。

- ・ 2歳児から5歳児でも、年齢を意識し、自分より小さい子の世話をしたり、大きい組の子に付いて行こうと張り切ったり、年長児は年長児としての自覚をもったりする姿もある。育ちの変化を見逃さず、異年齢の活動を取り入れることで、小学校に行っても子ども同士のさりげない連携の姿が生まれてくることがわかった。
- ・ 「話を聞く」ということでの期待される姿が、保育所と小学校では違っている。保育所の子どもの姿をよく把握し、小学校での指導を振り返る必要があることを理解した。

#### 第2回授業研究会(名草小学校) 6月29日

- ・ 第1学年 道徳 「いっしょにあそぼう(友情)」
- ・ 本時のねらい：友達を思いやることの大切さに気づき、みんなで仲よくし、困ったときは、助け合おうとする気持ちを育てる。

- ・ 授業の中で、自分の言葉で自分の思いを伝える活動を充実させることはなかなか難しいが、子どもの体全体の仕草、顔付き、目や口の動きなどから、積極性、逃げ、訴え、迷い、放棄の気持ちなどを見抜いていく力、子どもの表情をくみ取る力を、教師自身が身に付けていくことが必要である。そして、話したい子どもをうまく授業に組み込んでいくと活動が充実していくということがわかった。

#### 第3回授業研究会(名草小学校) 9月20日

- ・ 第2学年 国語 「お手紙」
- ・ 本時のねらい：主語・述語に気を付けて、登場人物の気持ちや場面の様子を想像しながら、登場人物の気持ちを読み取ることができる。

P.38 参照

第4回授業研究会(名草小学校) 1月23日

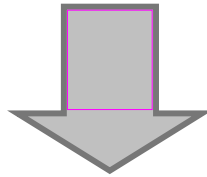
- ・第3学年 理科 「電気であかりをつけよう」
- ・本時のねらい：回路の一部に身近なものを入れて、明かりがつくときとつかないときがあることを調べる。  
考えや気づきやわかったことなどを自分の言葉で表現する。

- ・本時の中で、気付いたことや考えたことを自分の言葉で表現するというねらいをはるかに越えて、子どもの内面では、次時に調べたいことへの意欲がわいて、学びたい意欲が膨らんでいる様子が確認できた。そのような子どものこだわりを放っておくのか生かすのかを考えさせられた。教師は、子どもの探究心にこたえようとする気持ちを持ちながら、状況を判断して対応していくことが必要であるということがわかった。

第5回保育研究会(名草保育所) 1月30日

- ・年長・年中 「節分の豆入れを作ろう」
- ・今日のねらい：節分の行事への参加を期待しながら、豆入れ製作を楽しむ。  
製作に必要な用具を正しく使う。

P.40 参照



保育・授業研究会を生かした取組

取組 保育士と教師の話合いで気付いたことを「話す」「聞く」の観点で整理する。

(P.34 参照)

取組 保育所と小学校の交流活動を見直し、新たな活動計画を作成する。

(P.36 参照)

# 取組 ①

## 【保育士と小学校教員が話し合うことで生まれた気付き】

### < 観点「話す」 >

|               | 保育所（年長）                                                                                                                                                                                                                                                                                | 小学校（下学年）                                                                                                                                                                                                                                  |
|---------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 子どもの姿         | <ul style="list-style-type: none"> <li>言葉では、上手に表現できない。活動の中で、または保育士とたくさんふれ合い、安心することで、言葉での表現ができる子どももいる。</li> <li>朝の会などで、自分の名前をみんなの前で言うことができる。当番活動で決められたことをみんなの前で言うことができる。</li> </ul>                                                                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>心に感じたこと（本音）を話すことができる。（１年道德）</li> <li>自分の作品をどう工夫したのか話すことができる。（２年図工）</li> <li>発表することによって、自分の気付きを明らかにすることができる。</li> <li>友達と自然な形で情報交換できる。（３年理科）</li> </ul>                                             |
| 保育士・教員としての働き等 | <ul style="list-style-type: none"> <li>保育士が、子どもの表情をくみ取る力を身に付けることによって子どもの表現力は豊かになる。</li> <li>一人一人に寄り添い、よく観察して、子どもの表情から内面を読み取り、適切な言葉かけをする。</li> <li>子どもと話しながら何の絵を描いたのか聞き、子どもの絵の中に文字で書く。子どもの思いを文字にする。</li> </ul>                                                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの本音は、時間がたてば出てくるというものではない。</li> <li>全員が発表できても、理解できているとは限らないし、発表しないからといって理解していないとも限らない。子どもによって表現方法は様々である。発表しない子も認め、個別にかかわるなどして、理解しているかどうか見極める。</li> <li>表情を見て子どもの思いに気付いたら柔軟に対応して授業を行う。</li> </ul> |
| 気付き           | <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの表情を見つめ、子どもの思いをくみ取ることが必要である。<br/>子どもの仕草、顔つき、目の動き、口の様子、積極的か、逃げ、訴え、ためらい、放棄はないか、体全体を見る。話をしたい子どもをうまく組み込んで活動させる。</li> <li>安心して発言できる環境を作ることも必要である。<br/>自由な発言ができる環境があれば、意見は出るだろう。<br/>子どもが考える時間を持てば持つほど、教師や親が求めている言葉を考えてしまい、本音が出ないこともある。</li> </ul> |                                                                                                                                                                                                                                           |



|     |                                                                                                                                                                      |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 気付き | <p>話すことは、思考へとつながる。言葉で表現することは、理解を深め、次の思考につながる。また、理解して話すことは、相手の話がわかることにつながる。発達の段階に応じ、大人が代弁しなくても、自己表現できるよう指導していくことが大切である。言葉の力を最終的にはどうはぐくむか、その過程を教職員が理解することで学びが生まれる。</p> |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

### 参考

| 発達段階    | 保育所                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 小学校            |
|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
|         | 4～5歳                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 5～6歳      6～7歳 |
| 指導内容の目安 | <ul style="list-style-type: none"> <li>名前を呼ばれたら、返事ができる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>わからないことがあったら聞くことができる。</li> <li>知りたいことや、わからないことを進んでたずねる。</li> </ul> </li> <li>あいさつや返事ができる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>聞き手の方を向いてはっきり話す。</li> <li>事柄の順序をたどって経験したことを話す。</li> </ul> </li> <li>自分の名前や、担任の名前が言える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>見聞きしたことや経験したことのあらましを話す。</li> <li>自分の意見をみんなにわかるように話す。</li> </ul> </li> </ul> |                |

< 観点「聞く」 >

|               | 保育所（年長）                                                                                                                                                                                                                 | 小学校（低学年）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 子どもの姿         | <ul style="list-style-type: none"> <li>「先生の話聞く」とは、 <ul style="list-style-type: none"> <li>話す人の目を見ること</li> <li>話を聞こうとする気持ちをもつこと</li> <li>簡単な約束を理解し、守れること</li> </ul> </li> </ul>                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>「先生の話聞く」とは、 <ul style="list-style-type: none"> <li>集団の中で席に着いていられること</li> <li>席について話す人の目の方に体を向けることができること</li> <li>内容を理解すること</li> <li>内容を理解して、行動に移せること</li> </ul> </li> <li>友達の意見を聞いて、自分の意見と比べたり、気付いたことを自分の考えに取り入れたり、考えを深めたりすることができる。</li> <li>朗読を聞いて、読み取った内容から考えて表現のよさに気付くことができる。お互いの音読を注意して聞き合うことで読みが深められる。</li> </ul> |
| 保育士・教員としての働き等 | <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt; 話す人の方に注意を向ける手立て &gt; 導入で、指人形や手遊びを使う。</li> <li>&lt; わかりやすく伝える手立て &gt; 約束などは3つまでにする。</li> </ul>                                                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>「話が聞ける」＝「指示に従う」ではない。</li> <li>隔週で朝の時間に、お話の音読をする。</li> <li>音読を聞き合う活動を充実させることで、 <ul style="list-style-type: none"> <li>友達の音読に耳を傾けるようにする。</li> <li>よい点や改善点を聞き分ける力を育成する。</li> <li>友達のよさを褒め、互いに認め合い、自信につなげる。</li> </ul> </li> </ul>                                                                                         |
|               | <ul style="list-style-type: none"> <li>保育所で育ってきた状況をよく理解していれば、小学校でも子どもが理解しやすく伝えることができる。また、話を聞く姿勢などにこだわる傾向があるが、子どもにとって聞きたい内容がどうか、話の内容や話し方が子どもにとって聞き入れやすいものかどうかなど、発達に照らして考えることが大切である。幼・保・小連携の視点で見直す必要があるのではないか。</li> </ul> |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |



|     |                                                                                                                      |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 気付き | 小学校段階の子どもは、意見を聞き合うことで、思考が深まっていく。聞くことは、話し手を認め評価する存在となることであり、子ども一人一人が、集団の中での存在を認め合うことでもある。聞くことは、集団の中での学び、協同的な学びの基盤である。 |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

参考

| 発達段階    | 保育所                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |      | 小学校  |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|------|
|         | 4～5歳                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 5～6歳 | 6～7歳 |
| 指導内容の目安 | <ul style="list-style-type: none"> <li>話し手の方を見て注意して聞く。 <ul style="list-style-type: none"> <li>相手の話を終わりまで静かに聞き、わからないことは聞き返す。</li> <li>短い話の内容を正しく聞き取る。</li> </ul> </li> <li>紙芝居、テレビなどを楽しんで視聴する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>読み聞かせを聞いて楽しみ、あらすじがわかり感想を持てる。</li> <li>見本や手本を見ながら、一斉に説明を聞いて、みんなと一緒に行動できる。</li> </ul> </li> <li>個別に簡単な指示を聞いて、その通りに行動できる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>一斉の指示や説明を聞いて行動できる。</li> </ul> </li> </ul> |      |      |

これらのことを踏まえ、保育所と小学校で行ってきた交流活動を「話す」「聞く」の観点から見直し、活動計画を改善した。

次ページ

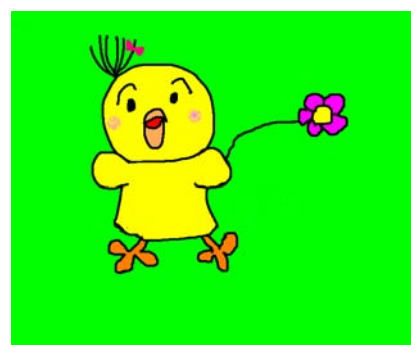
## 取組 ②

### 【保育所と小学校の交流行事計画（例）】

幼・保・小連携の取組の中で見えてきた子どもの姿を聞くこと、話すことに焦点を当て、保育所と小学校双方の担任が話し合い、計画を立てた。下の表は生活科のものである。

| 活動名                       | いっしょにあそぼう                                                                                                                   | 教科・活動                                                                                                                        | 生活科：人とのかかわり       |
|---------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| 時間                        | 10:00～11:30                                                                                                                 | 場所                                                                                                                           | 名草保育所（遊戯室、保育室、園庭） |
| ね<br>ら<br>い               | 年長児（17名）                                                                                                                    | 低学年児童（1年13名、2年10名）                                                                                                           |                   |
|                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校低学年の友達に関心をもち、進んで一緒に遊ぶことができる。</li> <li>自分の名前や好きな遊びのことを、グループの中で話すことができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>保育所の友達とともに楽しめる遊びを考え積極的にかかわることができる。</li> <li>相手の気持ちや言いたいことを考えながら話を聞くことができる。</li> </ul> |                   |
| 活動の流れ                     |                                                                                                                             | ○ 配慮事項 話す 聞く                                                                                                                 |                   |
| 1. はじまりの会                 |                                                                                                                             | 保育所の年長児と低学年の児童が向かい合って、対面であいさつをする。                                                                                            |                   |
| ア あいさつをする。                |                                                                                                                             | 司会、はじめの言葉、めあてを話す役は、2年生児童が行う。                                                                                                 |                   |
| 「今日は〇〇をします。」              |                                                                                                                             |                                                                                                                              |                   |
| 「よろしくお願いします。」             |                                                                                                                             |                                                                                                                              |                   |
| イ グループを作る。                |                                                                                                                             | ○ グループ編成については、事前に担任同士で話し合っておく。（2年、1年、年長児混合の縦割り4人グループを作る）                                                                     |                   |
| 「〇〇ちゃん」「はーい。」             |                                                                                                                             | 子ども同士の言葉かけで、1,2年生が、年長児の名前を呼びながら迎えに行き、グループが作れるよう、援助する。                                                                        |                   |
| ウ はじまりの会を開く。              |                                                                                                                             |                                                                                                                              |                   |
| はじめの言葉                    |                                                                                                                             |                                                                                                                              |                   |
| 「いっしょにあそぼう」のめあて           |                                                                                                                             |                                                                                                                              |                   |
| 保育所長の話                    |                                                                                                                             | 保育所長から、年長児が困っているときの助け方なども話してもらう。                                                                                             |                   |
| 2. グループごとの活動（10グループ）      |                                                                                                                             | ○ 園庭と保育室の両方の遊びを考えておく。                                                                                                        |                   |
| ア グループごとに自己紹介やあいさつをする。    |                                                                                                                             | ○ 遊びの内容は計画してあるが、場合によっては内容を変えたり順序を入れ替えたりしてもよいことを前もって知らせておく。                                                                   |                   |
| イ 遊びの内容を班長が説明する。          |                                                                                                                             | 班長は、遊びについてわかりやすく説明するために、絵カードや具体物を使う。                                                                                         |                   |
| ウ グループごとに遊ぶ。              |                                                                                                                             | あいさつが終わった班から、活動を始める。                                                                                                         |                   |
| （例）Aグループ                  |                                                                                                                             | ○ トラブルが起きても、相手の思いを受け入れながら話し合いで解決するように援助する。                                                                                   |                   |
| 紙芝居→なぞなぞ→へび鬼              |                                                                                                                             | ○ 遊びの内容や場所を変えるときには、班長と副班長が相談し、年長児には必ず言葉で伝えるよう、助言する。                                                                          |                   |
| →保育所の遊具で遊ぶ 等              |                                                                                                                             |                                                                                                                              |                   |
| エ 今日の遊びを振り返る。             |                                                                                                                             | ○ 年長児が言葉につまったときには、表情や仕草から言いたいことを察したり、言葉以外の思いも感じて促したりするよう、2                                                                   |                   |
| グループごとに、一人ずつ特に楽しかったことを話す。 |                                                                                                                             |                                                                                                                              |                   |

|                                                                           |                                                                                                                                                                                                                       |
|---------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>3. 終わりの会<br/> 1・2年生担任の話<br/> あいさつをする。<br/> 「ありがとう」<br/> 「また遊びましょう」</p> | <p>年生に助言する。<br/> 2年生児童がリーダーとなって、うまく<br/> 話せない子どもには、助け船を出し合う。<br/> &lt;例&gt;○○ちゃん、○○を楽しそうにやっ<br/> ていたね。好きな遊びは、○○かな？<br/> それとも○○かな？</p> <p>○ めあてができていた様子などを取り上げ<br/> 認め、賞賛する。<br/> ・ 次回の交流行事等について知らせ、意欲<br/> につなげる。</p> |
|---------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|



# 資料

## 【第3回授業参観記録(抜粋)】

|        |                               |     |            |
|--------|-------------------------------|-----|------------|
| 実施校    | 名草小学校                         | 実施日 | 平成18年9月20日 |
| 参加者・人数 | 幼稚園教諭、保育士、保育所長、大学教員、指導主事 計16人 |     |            |

|        |                                                          |                                                                                                             |
|--------|----------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 単元名・学年 | 「お手紙」(第2学年)                                              |                                                                                                             |
| 本時のねらい | ○ 主語・述語に気を付けて、登場人物の気持ちや場面の様子を想像しながら、登場人物の気持ちを読み取ることができる。 |                                                                                                             |
| 時刻     | 学習活動                                                     | 子どもの反応(つぶやき・会話など)<br>聞く 話す                                                                                  |
| 14:10  | ・ グループごとに役割を決め、役割の部分を音読する。                               | ・ 前時に学習した場面(がまくんはベッドで昼寝をしていたこと、お手紙が来ないので、泣きそうな顔をしていたことなど)を想起する。                                             |
| 14:15  | ・ 一つの班が音読を発表する。                                          | ・ 音読班長のところへ集まり、音読の練習をする。読み手が登場人物の気持ちを考えながら読んでいるかどうかを、注意深く聞いている。                                             |
| 14:18  | ・ 学習課題を知る。                                               |                                                                                                             |
|        | がまくんとかえるくんの気持ちを考えながら読み取る                                 |                                                                                                             |
|        | ・ 作業用紙に考えを記入し、登場人物になりきって発表する。                            | ・ 「今は僕そんな気分じゃないんだ。がまくんのお手紙を待っているんだ。」などいろいろな意見が出た。                                                           |
|        | ・ 二人でお手紙を待つ気持ちを中心に読み取る。                                  | ・ 「かえるくん、やっぱりきみは親友だ」という言葉を聞いて、親友という言葉の使い方を知る。                                                               |
|        |                                                          | ・ 「かえるくんが、ぼくにお手紙を書いてくれるなんて思ってもみなかったよ」「わくわくしてきたな」「初めてお手紙もらうんだ」などの意見が出た。二人で肩を組んでお手紙を待つ幸せな気持ちが、子どもにも伝わってきたようだ。 |
|        |                                                          | ・ 自分がその役になりきって気持ちを発表し、拍手がもらえた子どもは満足そうな表情だった。                                                                |
| 14:45  | ・ がまくんとかえるくんの気持ちを考えながら音読をし、お互いに聞き合う。                     | 友達の音読を褒める時は、理由も付け加えるようにさせる。                                                                                 |
|        |                                                          | ・ 「お手紙をかえるくんが書いてくれるなんて思ってもみなかったよ。うれしいな。」                                                                    |
|        |                                                          | 「ぼく、はじめてお手紙もらえるんだ」な                                                                                         |

|  |  |                              |
|--|--|------------------------------|
|  |  | ど教科書の挿絵などから読み取れたことなども発表していた。 |
|--|--|------------------------------|

### 【授業研究会での主な意見】

|      |                                                                                                                                                                                   |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 指導主事 | ・ 授業の中で、子どもが友達の発表を聞いて感想を言う場面があった。子ども同士の相互評価で、聞き手が評価してくれることを喜んでいた。朗読の聞き合いをしたとき、子どもから、「ああ。」の読み方が良かったという意見が出た。がまくんが、「ああ。」という気持ちになるのをどう表現するのか聞いていた。だから、子どもは聞くだけでも登場人物の気持ちを十分に学びとっている。 |
| 保育所長 | ・ 保育所の子どもは、相手の意見を聞くとすぐに口をはさみたくなるが、小学生になると、それはやってはいけないことだとわかってくる。                                                                                                                  |
| 大学教員 | ・ 子どもの発言には、本質をとらえている場合がある。だから教師は、その教材について深く理解していなければいけない。子どもの言葉の本質を聞き取る力をもたなければいけない。                                                                                              |

### 【授業研究会から気付いたこと】

保育所で学んだことを基礎に

保育所の子どもたちは、様々な活動の中で保育士に見守られながら言葉を学んでいる。保育士は、言語として完成されていない言葉から思いをくみ取り、正しい言葉遣いへと子どもたちを導いている。小学校では、保育所で培われた話す力・聞く力を、更に系統立てて指導し、相手の言いたいことを考えながら聞いたり話したりする力を身に付ける必要がある。

自分の言葉・相手の言葉を大切にできる子に

いつもはたくさんの言葉を吹き出しの中に書き入れる子どもが、時によってじっと考え込んでいることがある。そのとき、教師は、その子の心の中で起こっている葛藤を大切にしたい。自分の思いを表す言葉を見つけ、話すことができたとき、子どもは達成感を味わうことができる。友達の話を聞いて自分の考えを深め、内容について話合いができるような子を育てていきたい。

### 【今後の課題】

保育所と小学校の子ども姿を見て、どのように子どもが言葉を学んでいくのか、聞くこと・話すことの中で保育士や教師はどうかかわったらよいのか、少しずつ共通理解することができた。名草保育所と名草小学校は、どちらも少人数である。子ども同士、異年齢の子どもとも、よく遊ぶ。保育所と小学校で継続してきた生活科の交流学習の場で、学びの連続性を考慮した活動に取り組んでいきたい。また、年長児と低学年の児童が、お互いを認めたり励ましたりしながら、共に遊びをつくっていく楽しさが味わえるよう、双方の担任が話し合って活動計画を改善し、実践する。

【第5回授業参観記録(抜粋)】

|        |                               |     |            |
|--------|-------------------------------|-----|------------|
| 実施園    | 足利市名草保育所                      | 実施日 | 平成19年1月30日 |
| 参加者・人数 | 保育士、保育所長、小学校教諭、大学教員、指導主事 計16人 |     |            |

|        |                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 活動名・学年 | 「節分の豆入れを作ろう」(年中、年長)                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 今日のねらい | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 節分の行事への参加を期待しながら、豆入れ製作を楽しむ。</li> <li>○ 製作に必要な用具を正しく使う。</li> </ul> |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 時刻     | 子どもの主な活動                                                                                                   | 子どもの反応(つぶやき・会話など)<br>聞く 話す                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 10:00  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「豆まき」を歌う。</li> <li>・紙芝居「おにとふくのかみ」を見る。</li> </ul>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 節分に向け、鬼の面はあらかじめ作ってあるので、期待を持って楽しく歌う。</li> <li>・ 節分の由来が理解できたのか、「おふくちゃんだって!」「だから豆をなげるんだ!」等言いながら集中して見ている。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                         |
| 10:10  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作り方の説明を聞く。</li> </ul>                                             | 見本を見て作り方の説明を受け、各自がイメージを広げる。男児数名はわからないのか保育士の顔を見て話を聞くことができない。障害児担当保育士が個別に助言指導すると理解し取り掛かる。                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 10:15  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 用具の使い方を確認する。</li> </ul>                                           | ハサミの正しい使い方の説明を聞き理解する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 10:25  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自由に豆入れを作る。</li> </ul>                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 折紙、お花紙、毛糸、ボタン等の廃材を自由に選んで自分のイメージを膨らませて製作する。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 11:10  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループごとに自分の作った豆入れを見せる。</li> </ul>                                  | <p>保育士の指示がわからず戸惑っていても、「わからない!」と、言うばかりの男児。ハサミに手が届かなくても「届かない!」と言う男児。同じグループの男児が「先生に頼みたいときは、どうするんだっけ?」と言いながら援助している。</p> <p>グループごとに全員の前で自分の名前を言ってから作品の説明をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「○○○○です」</li> <li>・ 「お花紙とキラキラ紙でリボンをいっぱい作りました」</li> <li>・ 保育士が作品のよいところを褒めながら補足説明することにより緊張気味の子どもも和らいだ顔になる。限られた時間なので、完成しない場合は午後引き続き行うことを知り安心した様子である。</li> </ul> |

### 【保育研究会での主な意見】

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 指導助言者 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各々の子どもが自分なりにねらいに向かっていたと思う。子どもが育っていく力を見据えて指導するとよい。小学校では、様々な幼稚園、保育所から入学するので、生活のリズムが違うことを把握して指導するとよい。子どものしぐさを見て、リズムをもう一度確認して進めていけばよい。</li> <li>・ 子どもの発達上、どんな経験が必要かを考える。子どもの発達を保育士が理解することが学びが生まれる基盤である。保育参観等で保護者にも知らせていくとよい。</li> </ul> |
| 小学校教諭 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最近、感性のない子が多くなってきている。大人が「ああ、きれいな花ね!」「どっちがきれい?」等投げかけていくことが大切ではないか。製作などでの指導の際も、色や形などに関する感性を養うということにも配慮して指導する必要があると思う。</li> </ul>                                                                                                       |
| 保育士   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発表する力を養うために自分の名前を言ったり、当番活動で話す機会を設けているが、出来た作品を自分で表現するのは難しいと思ったので今回は、代弁した。</li> </ul>                                                                                                                                                 |
| 保育所長  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育所では、子どもが描いた絵に対して、何を描いたか聞いて文字で書いてあげている。聞くことは、子どもの言葉を引き出す意味があり、書いてあげることは、子どもの思いを文字として表す意味がある。</li> </ul>                                                                                                                            |

### 【保育研究会から気付いたこと】

- ・ 保育所では、就学に向けて文字、数字、生活習慣等々をどの程度まで指導しておけばよいのかということではなく、就学後、子ども自身が自ら学ぶ意欲をもち、知識や技術を主体的に身に付けられるように、子どものやる気や意欲を育てることが大切である。  
そのためには、一人一人の個性や興味・関心を大切にし、子どもががんばっている姿を認め、伸び伸びとゆったりとした雰囲気の中で保育を行い、様々な体験を通して、聞く力や話す力を身に付けられるよう援助していくことが望まれる。

### 【今後の課題】

紙芝居、絵本、ペープサート、エプロンシアター、パネルシアター等、視覚と併せて聞く力を養うだけでなく、保育士自身が話の内容や間の取り方を工夫したり、素話を聞く会などを設けて想像力や集中力を付けるなど、さらに工夫しながら取り組んでいきたい。

幼児は、話すことにより人の話がわかるようになる。話すことは思考力につながるので、日常生活や発表会等の行事の中で言葉での表現力を付けたい。そのために、保育士は子どものモデルとなり、一人一人の発達に応じた適切な助言をし、子どもが言葉で表現できるよう促していきたい。

## 【平成19年度幼・保・小連携調査研究委員会協力委員一覧】

|     |                       |         |
|-----|-----------------------|---------|
| 茂木町 | 芳賀地区広域行政事務組合教育委員会指導主事 | 小 倉 淳 子 |
|     | 茂木町逆川保育園保育士           | 岡 本 きよみ |
|     | 茂木町立逆川小学校教諭           | 箕 輪 尚 子 |
| 野木町 | 野木町教育委员会主任兼指導主事       | 藤 田 晴 彦 |
|     | 学校法人 栄孝学園 野木幼稚園教諭     | 上 田 京 子 |
|     | 野木町立友沼小学校教諭           | 山 下 史 子 |
| 塩谷町 | 塩谷町教育委員会副主幹兼指導主事      | 齋 藤 学   |
|     | 塩谷町立塩谷幼稚園教諭           | 大 島 幸 子 |
|     | 塩谷町立船生東小学校教諭          | 秋 間 幸 子 |
| 足利市 | 足利市教育委員会指導主事          | 松 村 由 紀 |
|     | 足利市立羽刈保育所長            | 森 田 紀美子 |
|     | 足利市立名草小学校教諭           | 粕 川 京 子 |
| 事務局 | 栃木県総合教育センター幼児教育部副主幹   | 永 井 弘 美 |
|     | 栃木県総合教育センター幼児教育部指導主事  | 鈴 木 智 恵 |
|     | 栃木県総合教育センター幼児教育部指導主事  | 高 木 恵 美 |

## 【参考文献】

- 平成11年改訂 「保育所保育指針」(フレーベル館)
- 平成11年改訂 「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館)
- 平成11年改訂 「小学校学習指導要領解説生活編」(文部省)
- 平成17年1月 「子供を取り巻く環境の変化を踏まえた幼児教育の在り方  
について(答申)」(中央教育審議会)
- 平成17年2月 「幼児期から児童期への教育」  
(国立教育政策研究所教育課程研究センター)
- 幼稚園・保育園から小学校へ接続期の教育(佐賀市教育委員会)
- 平成20年1月 「幼稚園・小学校・中学校・高等学校及び特別支援学校の  
学習指導要領等の改善について(答申)」(中央教育審議会)

**平成19年度幼・保・小連携調査研究委員会報告書**

**子どもの学びが生まれる保育・授業の工夫と保育研究・授業研究  
—幼・保・小連携の充実のためのQ&A—**

発行 平成20年3月  
栃木県総合教育センター 幼児教育部  
〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町1070  
TEL 028-665-7215 FAX 028-665-7216  
URL <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/youji/>